大正四年十一月一日發行 第三巻第二號　（毎月一回一日發行）　大正四年十月四日第三種郵便物認可

近代思想

十一月號

秩序紊亂	榮	（一）
意志の教育	大杉榮	（二）
幻滅の幼兒	荒畑寒村	（七）
事實と解釋	大杉榮	（一三）
英國大罷工の其後	荒畑寒村	（一六）
神田橋	荒川義英	（二四）
女の抗議	山川均	（二六）
僕等の生活	寄稿	（二七）
所謂政府的思想	大杉榮	（三一）
平民經濟學	大杉榮	（三八）
編輯の後	榮	（四〇）

近代思想社
東京市小石川區武島町二四

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Asia Library
AP 95 .J2 K47 no.3

田中王堂氏序
生田長江氏序
平塚雷鳥氏序

岩野清子氏著

同棲六ケ年の偽らざる日記 愛の爭鬪

賣捌所 東京神田錦町一の十二 自疆館書店 振替東京三一四三七番

四六判五百三十頁
定價 一圓廿錢
送料 八錢

□人に示すの意なき日記は最も自然なる自傳である□よし多少の修飾をも存し、無反省の缺點をも帯ぶるにせよ、猶最も價値ある自己告白である□清子氏は今正に毀譽相半せる、問題の新しき女である□其清子氏が『深く羞耻を感じ』つゝ、『敢て勇を鼓してこの日記を』發表された□苟くも岩野事件に就て興味を有し、或は不快を感じ、或は想像を逞うし、或は批評を試みたる人々は、必ず此書を一讀するの必要と義務とがある□此書は清子氏の性情を暴露し、泡鳴氏の人物を直寫し、此性情と其人物との關係を細叙し、更に此二人を中心としたる文壇名士交遊の狀態を映出した、鮮明、雄麗、深酷、奇拔の活動寫眞である。

發行所 米倉書店出版部 東京市小石川區雜司ケ谷町二 番三

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代思潮叢書

□第一高等學校教授 三並良先生著

（第九編）

生命中心の哲學

四六判洋布製
定價八拾錢
郵稅金八錢

近代の思想を辿りゆく時は、必ず一層高等なる精神的生命の活躍を尋求憧憬する大努力に逢着すべし。本書收むるところ、或は純粹の理論、或は比較宗教學上の研究、或は偉大なる人格に關する評論等、その種類多しと雖も、皆この大精神の運動を看破せんとするものにあらざるはなし。是れ、生命中心の哲學と題する所以、且つ著者は獨逸の思想界と最も多く交涉す。獨逸今日の强大をなす根柢たる思想を窺はんとする人、一度本書を繙けば自ら釋然たるものあらむ。

（一）オイケンの哲學　三並良氏著
（二）現代思想と倫理問題　オイケン原著 今岡文學士譯
（三）生の更改と新藝術　內藤濯氏著
（四）科學と宗敎　三井文學士著
（五）現代の思想家　小松文學士著
（六）自我の研究　野村隈畔氏著
（七）靜觀と思想　岡田哲藏氏著
（八）宗敎の哲學的基礎　藤田文學士著

■定價各金七拾錢（但、七、九編に限八十錢）郵稅各八錢

□發兌　東京京橋尾張町　警醒社書店　振替東京五五參番□

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會的文藝・實行的藝術

最も人間及社界生活に接したる…………眞正の文藝は本叢書を措きて他に求むる能はず…………

生活と藝術叢書

每月二冊續刊

第一冊十月初旬發行

菊判截形百餘頁
裝幀堅實美本
每冊寫眞版一葉
定價◎金參拾錢
送費一冊各四錢

第一編 社會的近代文藝 馬場孤蝶著

第二編 自由社會の男女關係 カアペンタ—著 堺利彦譯

第三編 隨筆 金魚のうろこ 上司小劍著

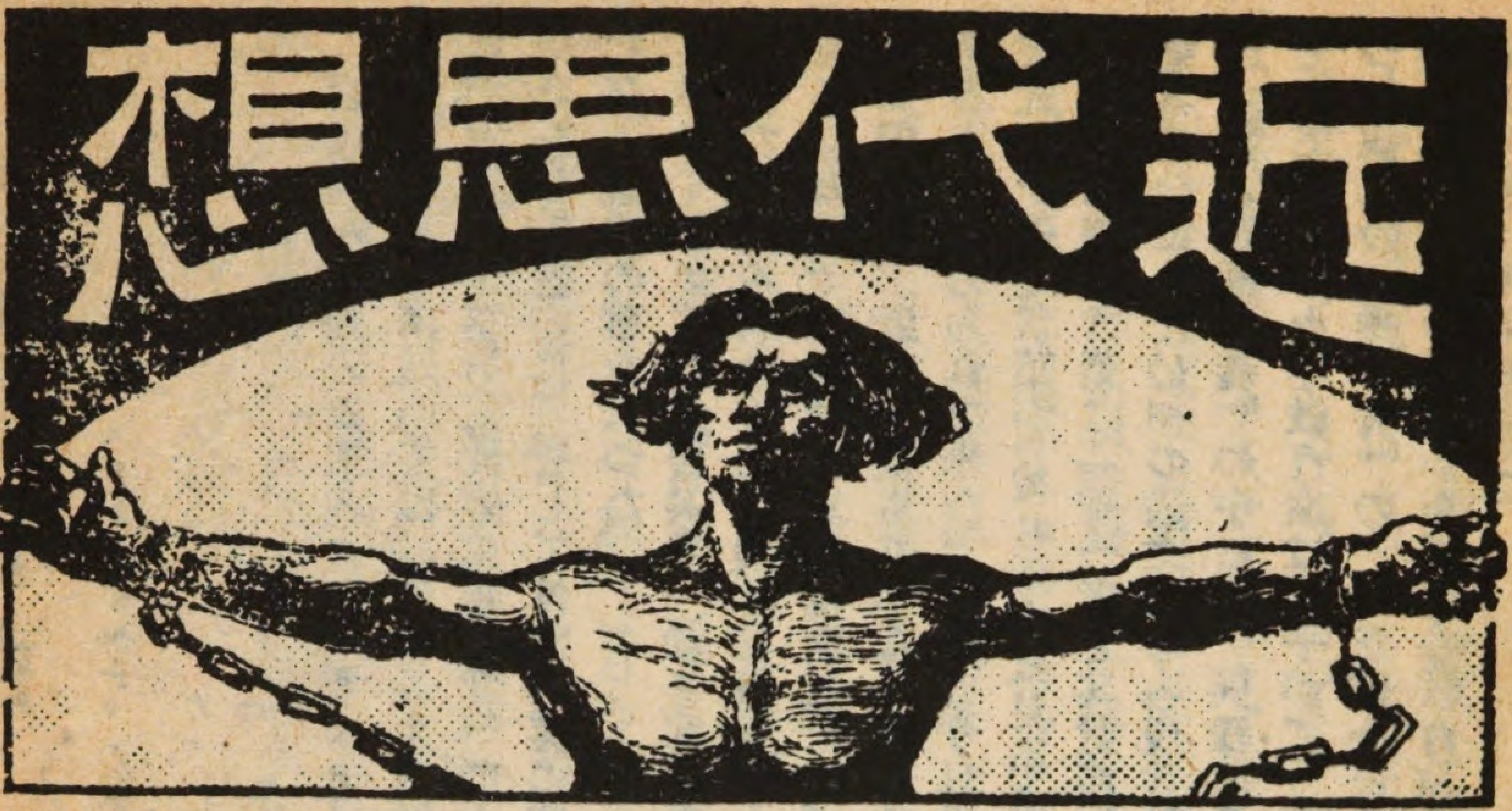
第四編 勞働運動の哲學 大杉榮著

「生活と藝術叢書」は古典復刻叢書にも非ず飜譯叢書にも非ず十錢叢書にも非ずして、實に文藝と哲學とを一般社會に普及せしめ、接近せしめ藝術と實生活とを渾一せしめ富者階級の手にある哲學藝術をして平民の手中に持ち來さんとするものなり。更に我々勞働階級の健全なる世界を建設せんとする基礎たり先驅たらんとするもの也。形小なりと雖も篇々皆著者の心血を濺げるものにして、各著者の思想及藝術の精髓なり。價又廉にして購讀甚だ容易なり。

以下逐次續刊

發行所 東京市日本橋區檜物町九番地 東雲堂書店 振替東京五六一四 電話本局一八七一

213-442254



第三卷　第二號

秩序紊亂

動かし難く見える、大日本帝國の秩序の、如何に紊亂され易き事よ。

十月上旬號の『日本及日本人』は、其の平素の極めて忠君愛國的なるにも係らず、又十月中旬號の『第三帝國』は、其の平素の極めて御機嫌取り主義なるにも係らず、騎大日本帝國の秩序を紊亂したりとて發賣頒布を禁ぜらる。而して其の何れも單に少々現内閣に不都合ありしと云ふに過ぎず。

然るに、八月下旬發行の雜誌『木鐸』（酒田町）は、同志齋藤惣氏の『勞働者セヰリオフの紹介』によりて、是れ亦秩序を紊亂し、齋藤氏は直ちに山形の未決監に投ぜられて、目下公判中なりと聞く。アルツイバセフ作『勞働者セヰリオフ』は、曾つて其の全譯によつては此の秩序をも紊亂する事なかりしが、今や僅かに一頁半の其の内容の紹介によつて秩序を紊亂す。しかも其の紊亂の主因は、僅かに十行の無政府主義の說明にありと云ふ。

僅かに十行の無政府主義の說明を以て、吾々は此の大日本帝國の秩序を紊亂するに足る以上、吾々は最早、此の大日本帝國の基礎の如何に薄弱なるかを疑はざるを得ない。

希くば大日本帝國よ、吾々が敵として戰ふべくもう少し歯介のあるまでに、汝の基礎をして堅牢ならしめよ。

——榮——

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

意志の教育

——マクス・スティルナアの教育論——

大杉 榮

一

近代個人主義の先驅者マクス・スティルナアの人物及び其の中心思想に就いては、僕の『生の鬪爭』の中に再錄された本誌第一卷第三號の「唯一者」によつて、既に大體の紹介をして置いた。そして僕は、其の紹介の最後の項に、次ぎの意味の事を云つた。

スティルナアの名著『唯一者と其財產』は、四十年間圖書館の書棚の隅の方に、誰れ見るものもなく塵の中に埋づもれてゐた。けれども思想は進む。やがて此の知られざりし孤獨者が、近代の最も强烈なる個人主義思想の先驅者であると、認められて來た。そして今日猶人々の求めてゐる定式の正確な言葉が、彼れの中に見出されたと。

此の正確な言葉は『唯一者と其財產』の中のみならず、猶其の公にした最初の論文たる『現代教育の首要原則、人道主義と現實主義』の中にも、同樣に見出す事が出來る。そして又此の少年教育論は、やがて一種の靑年教育論となつた彼れの『唯一者』の、甚だ完全なる嫩芽であつた。僕は、此の二つの意味から、此の教育論を紹介する事に、可なり大きい興味を持つ。

『現代教育の首要原則』は、一八四二年四月、近世科學的社會主義の祖カアル・マルクスの主宰する『ライン新聞』に現はれた。

スティルナアは先づ、教育學の甚だ重要なる事を說き、Die Schulfrage ist eine Lebensfrage（教育問題は人生問題である）とまで論じて、教育學者の間には、全く矛盾する二個の教育原則、即ち人道主義と現實主義とが、昔も今も相爭はれてゐる事實を指摘してゐる。人道主義とは、今日の言葉で云へば、古典教育法である。又現實主義とは近世法教育法である。

宗教改革の頃までは、教育と云へば、人道主義の外はなかつた。しかし宗教改革から大革命までの間は、主人と奴隸、有力者と無力者、成年者と幼年者の關係が社會を支配した、スティルナアの所謂『奴隸の時代』であつた。此の時代には、教育は一種の權力となつて、それを受けたものが、受けないものゝ上に權威を有する、强者となつた。しかし權威は有らゆる人々に持たす事が出來ないので、從つて此の權威の理由であり方法である教育も亦普遍的のものとする事は出來なかつた。そして此の權威を倒して、奴隸と主人との制度を破壞し、各人が自らの主人になると云ふ原則を打建てたのが、實に佛蘭西大革命であつた。其の必然の結果として、教育は普遍的のものとならなければならなかつた。然るに教育を少數者の特權として見る舊い獨占論者等は、勢ひ此の傾向に對して反抗の聲を擧げる事となつた。斯くして此の二つの傾向の間の鬪爭が、今日まで繼續されて來たのである。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二

されば十八世紀の所謂『光明時代』以前には、教育は全く人道主義者の掌中に在つて、只だ聖書と古典との研究をのみ其の仕事としてゐた。人間の生活は、美のモデルや眞理の法則を提供すると云ふやうな、興味深い又諧調に富んだものではなかつた。教育は、只だ社會的優越の方法又は支配の道具としてのみ見做され、從つて全く形式的のものであつた。其の古典から求めた所のものは、只だ文學や美術の形式であり、圖式であつた。そして又、此の教育から求めた所のものは、只だ社會上の形式的優越であつた。感情の纖細、趣味の高雅、會話の流麗、動作の端麗、要するに只だ此等の形式の上の優越であつた。

然るに『光明時代』以來、一方には、人權の普遍的である事が認められ、從つて教育は有らゆる人々に施さるべきものであると主張された。そして他方には、從來の教育の眞價値が疑はれて、實用的でなければならぬと云ふ議論が出て來た。斯くして人道主義の形式教育に對する反抗が現はれ出した。藝術の形式などは何うでもいゝ。生活の材料を得なければならぬ。學校は活動的生活の準備でなければならぬ。一切の知識を獲得して、すべての人々が何事にも主人ゝなる能力を與へられなければならぬ。これが此の現實主義の合言葉であつた。斯くして新しき教育學者等は、人權の原則たる平等が、教育のすべての人に施されると云ふ事に於て、又人權の他の原則たる自由が、有らゆる知識を得て事物の主人になると云ふ事に於て、教育の上にも適用されん事を要求した。

此の二個の教育原則は、其の性質に於ても亦目的に於ても斯く甚だ矛盾したものであるが、しかも猶其の間に或る共通點があつた。即ち過去を理解せんとする人道主義と、現在を左右せんとする現實主義とは、何れも皆な單に一時的事物の上の權力を得させんとするに過ぎなかつた。自ら自らを捕へる靈のみが永久的のものである。現實主義は人々を互に平等たらしめんとする。しかし人をして自己と平等たらしめようとはしない。一時的の我れと永久的の我れとを調和せしめようとはしない。一言に云へば、自我の統一と萬能との思想を持たない。自我は、其のそとに在る一切のものを服從せしめるもので、それ自身だけで充足するものである。

現實主義は、すべての人の自由、即ち一切の權威からの解放を要求する。しかし其の自由も自主ではない。現實主義は、彼れ自らが自由なる人の行爲、[illegible] 即ち何等の顧慮する所もない精神の發現、と云ふ事には思ひ到らない。從つて此の現實主義によつて教育された所謂實用人は、他人との平等の上に、他人の權威からの解放の上に、出る事が出來ない。尤も此の實用人と雖、彼の人道主義の所謂端麗なシヤレ者よりは、多少ましかも知れない。しかし此の實用人と云ふのも『唯物主義の縫目でピカピカと飾り立てゝゐる』無趣味な實業家に過ぎない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三

　現實主義は、一切の抽象を嫌つて、抽象が生命や自由の仇敵であるかの如く信ずる。けれども生命や自由は、却つて、此の抽象の中に在るのだ。一切の物質を滅却して、それを精神化する抽象こそ、本當の解放者なのだ。自由人とは、一切の現實に超越して、有らゆる知識を自我の統一の中に歸せしめたものを云ふのだ。

　されば科學は、其の科學としての存在を絶ち、單純な本能に歸し、即ち意志となつて復活して、始めて完成される。此の意志になり終るまでに純化されない科學、全く吾々の中に溶解し終らないで單に吾々の一所有物になつてゐるに過ぎない科學、自我を思ふまゝに活躍させないで却つて其の重荷になつてゐる科學、更に換言すれば人格的になり終らない科學は、人の生活を準備するものとはならない。

　眞理は自我の發現に在る。然るに從來の學校は、斯くの如き自由人を造らんともせず、又造り得なかつた。學校は吾々を事物の主人にした。吾々自身の所謂性質の主人にした。しかし本當に自由な性質の主人にしたのではない。吾々が學校で學んだ科學は、思想や意志の最大の屈辱と妥協する。現實主義者は、生徒が其の教はつた事物に就いて、よく理解しよく適用する事を要求する。けれども其の生徒に教へる事物は、要するに或る與へられた一事物に過ぎない。そして更に其の事物を超越して、精神的に活動する新しき人格的知識を得る事を教へない。斯くして教育學に於ても、他の有らゆる科學に於けると同じく、屈從と卑劣とが支配してゐる。『現實主義者の奇獸苑から出るものは、實用人、brauchbare burger 有用なる市民、即ち奴隷人である。………學校教育の結實は實に Philistinismus 俗物根性である。』

　現實主義は、彼等自らも亦誇らかに、實用人を造る事にのみ努めると云ふ。しかし本當の實用と云ふのは、只だ生活の通路を開いて行く事のみではない、科學は、斯くの如き實用的目的にのみ使用されるには、餘りに高貴すぎる。本當の自由とは、自由人にとつては、其の自由を表現する事である。そして本當の科學とは、新しき生命を與へる、自由其者である。

　動物は、漸く乳離れをするや否や、森や野を駈けめぐつて、其の全活動を生活に必要な食物を求める事に獻げる。これ程實用的な生活はない。そして實用人の生活は此の動物生活に最も近きものである。實用人は、平等や自由の精神たる原則に從はないで、只だ其の形式たる確信にのみ從つて行動する。確信は動かない。心臟に歸つては、絶えず新しくなり、若返りする血ではない。凝固し腐敗する血である。現實主義の教育は、此の所謂健全な、強固な性格、動搖する所のない人間を造り上げる事は出來よう。しかし不斷の自己創造によつて、絶えず流動して行く所に其の強固があり、瞬間毎に新しく形成されて、自我の創造的精力の盡くる事なき所に其の永遠がある』と云ふやうな性格を造

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る事は出來ない。所謂健全な性格は凝結し硬直してゐる。性格の完成は、『常に新しく若返り再生する事の喜びから、激情の中に搖動し、震動する』事を堪へ忍ぶに在る。

四

されば一切の教育の中心は、人格の形成であり、發達でなければならぬ。『一切の科學は、如何に深く又如何に廣くとも、それが一と度自我の見るべからざる處に滅盡して、再び其處に超感覺的の思惟すべからざるものとなつて堂々と再生し激發し來らざる限り、常に外的のものである。』科學が斯く完成されんが爲めには、對象に執着する事をやめて、科學其者、觀念の科學、靈の認識とならなければならぬ。斯くして科學は、靈の傾向となり、本能となり、自我の行爲を自由に決定する無意識的科學即ち意志となる。

そして此の目的を達せんが爲めには、一切の教育が人格的にならなければならぬ。學校が諸々の知識を以て生徒の精神を阻格する事をやめて、各生徒の個性を發達せしめ、自由な人間と自主の性格とを築き上げる處にならなければならぬ。即ち從來の如くに、生徒の意志を壓へ弱める事をやめなければならぬ。小供の移り氣は、普通誤まつて弱志と稱せられてゐるが、其の好奇心や知識欲と同樣の、存在の理由を持つものである。小供の好奇心を利用しつゝも、何故に其意志の自發力をも利用する事を敢てしないのか。又小供の自尊心と獨立心とを壓へてはいけない。よしそれが倨傲心となつた所で、いつでも教師は、それに對する武器として彼れ自身の自由を持つてゐる。若し自尊心が反抗心に墮落すれば、それは生徒の自我が教師の自我を冒さんとするのだ。矢張り生徒と同じく自由人たる教師は、それを堪へ忍ぶ要はない。けれども教師は、如何なる事があつても、權威と云ふ容易な武器を以て防禦してはいけない。自由人に權威の要はない。獨立心が傲慢心となつた所で、其の傲慢心は、眞の女の柔和や、又は眞の男の剛毅に敵し得るものではない。權威に頼るのは自己の薄弱を告白するものである。

要するにスティルナアは、當時の教育者に對して、Willenloses Wissen 意志のない科學の、舊い原則に執着してゐる事を批難したのであつた。そして彼れは、意志と云ふ新しい原則を以て、それに代はらしめんとしたのであつた。舊教育學が科學と生活との一種の Konkordat (和親條約)を結ばんとしたのに對して、彼れは學校其者が生活となり、學校の理想が生命其者の理想と同じく、人格の自己啓示であり、自己表示であり、自己實現である事を期待した。本當の生命は自由に在るのだから、學校は服從の處でなく自由の處とならなければならぬ。思索の自由と云ふ事だけでは足らない。思索の自由によつては、吾々は只だ、內的に自由になるに過ぎない。斯くの如き內的自由があつた所で、吾々は依然として外的には奴隸であり得る。寧ろ此の外的自由の方が、科學から見れば正しく內的自由であり、そして意志から見れば正しく本當の自由なのである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

即ち人道主義者と現實主義者との上に、更に人格主義者がなければならぬ。科學を活動的力に變ぜしめ、思索自由の時代を意志自由の時代に移らしめ、そして實き教育の二個の理想を調和せしめるものは、實に此の人格主義あるのみである。此の自由人にして始めて、現實的主義の造らんと欲した眞に善良なる市民となり、又人道主義の造らんと欲した眞に趣味の人となる事が出來る。

五

以上は、マクス・スティルナアの最初の論文『現代教育の首要原則、人道主義と現實主義』の、極めて忠實なる略說である。

僕等は此處に、猶彼れがヘエゲル派哲學の支配から少しも拔け切らずにゐる事を、先づ認めなければならぬ。即ち彼れは未だ、ヘエゲルの云ふ意味の靈と自主的意志との間に、超ゆべからざる深淵のある事に氣がつかなかつた。彼れの此の教育論の曖昧な個所は、すべて皆な此の缺點から來ると云つてもいゝ。

次ぎに僕等は、スティルナアの後年の中心思想たる個人主義、絕對人格主義が、既に此の論文の中に十分に啓示されてゐる事を認めなければならぬ。只だ異なる所は、『唯一者』は成年者に就いて語り、『現代教育論』は幼年者に就いて語つてゐる事に過ぎない。そして此處に殊に注意して置きたいと思ふのは、此の『現代教育論』の中には、其の個人主義がまだ後年の極端な誤まれる利己主義と同一視されてゐない事である。

最後に僕等は、彼れの教育學の原則に十分の根據があり、今日の教育者等も大に彼れの言に聽く所なければならぬ事を認めなければならぬ。スティルナアが當時の教育原則に向けた批難は、今日と雖も、しかも遙かに遠く隔たつた我が日本に於ても、等しく亦適用する事が出來る。今日の我國の教育は、一個の人を造る事よりも、種々なる知識を注ぎこむ事に腐心する。スティルナアの時代と同じく、今日の教育者等は、只だ記憶力の教育、理解力の教育、理性の教育にのみ努めて、意志の教育を全く無視してゐる。

教育の改革を唱ふる多くの學者は、少年の心理狀態を解剖して、今日の教育が如何に少年の本能を破碎し、其の設意心を抑壓し、其の人格を滅絕し、そして其等の少年が學校を出ても、如何に生活を知らず、如何に活動に堪へず、人間らしき努力の前に如何に戰慄するかを說いてゐる。

そして僕等自身も亦、常に自ら、斯く形成された僕等の腑甲斐なさを、此の卑劣を、悔恨し憤激してゐる。僕等の受けた知育や德育や體育は、要するに僕等をして、主人の爲めに役立つべき聰明な、溫順な、そして強健な小動物として了つたのだ。

僕等は僕等の弟妹や子女を本當の人間に教育すると同時に、僕等自らも亦、僕等の教育をしなほさなければならぬ。本當に自由な人間とならなければならぬ。本當に皆んなが自由な人間となり得るやうに、僕等の周圍を改造しなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

幻滅の幼兒

——ルクリュ著『原始民族』の一節——

荒畑寒村

一

休息、即ち the dolce far niente (無爲の樂しさ)は、アラスカ半島の隣り、アリユウチア土人にとつて、何物にも替へ難い物である。斷崖の頂上より、亦その綠草生へる小舍の屋根より、彼等は海を眺むるを好むが是れ日光に浴せんが爲に東天の紅ならんとするのを待つのだと云はれて居る。兎に角、曉の雲破れて太陽の上らんとするや、男も女も等しく觀望の場處に上る。若し閑暇だにあらば、彼等は數時間一語を發せず、何の身振りをも爲さず、靜止して動かぬ。寒風と冷霧とにも拘はらず、此の懶惰にして沈鬱なる夢想家は東洋人の如く、瞑想を爲すのである。然し乍ら、怠惰は彼等にとつて罪惡では無い、何となれば若し必要だに感じなば、彼等は忍耐と良心とを以て夥しき勞働にも堪ゆるからである。只だ彼等は、その止むを得ざる場合にのみ、賢者ソロモンの如く『苦しみをもてる樂しみに充てる家に在らんよりは、寧ろ乾ける食物と安靜とあるに如かず』となして、成るべく困難と努力とを浪費せざるに注意するのである。

彼等は有ゆる事物に對して堅忍力を有し、寒冷饑餓辛勞をも賞讃に當る靜肅と平安とを以て耐ゆるが、然し彼等はまた之を輕侮して止まぬ。極端まで追窮せられざる限り彼等一度怒ればその終りを知らず、若し復讐を果す能はざれば自殺するに至る……アリユウチア人は牡牛の堅忍と、牝牛の優しき愛情を有して居る。彼等をして愁訴せしむるには、悲哀は極めて鋭く、抑壓は頗ぶる辛辣で無くてはならぬ。蓋し病者と雖も、曾て嘆息し或は呻吟することが無いからである。三日乃至四日に亘つて、一語のその脣を洩るゝことも無く、男は別に不愉快な樣子も無く勞作し且つ刻苦する。『辛くはないか』と問はれても返辭せぬが、繰返し問はるれば只だ悲し氣に微笑するのみである。獵人の時として、狼や狐の係蹄に足を捉へらるゝ事があるが其折は骨を斷つて脚を救出すの手術をも、已れが爲とあれば些の焦燥の身振りも無く從ふが、然し是等の傷痍は只だ食物と休息とさへ與ふれば癒ゆるのである。

二

吾々の子供と違つて、彼等の間の小兒は決して互に打擲をせない。而してその言語は罵詈嘲弄の辭句に缺けて居るが故に、彼等は爭論するのを非常に困難に感じて居る筈である。然し乍ら文明は此の缺陷を補つて與れたので、今日では醉漢は露西亞語から拔いた口汚き辭句の小貯蓄を傾倒して、互に呼び合ふに至つた。昔日、二種族の間に不和のあつた時は、一層多く憤怒せる者は敵を要撃せんと企てはするが、その後では勝敗に關せず、引き退いたものである。然し乍ら、斯の如き爭鬪は極めて稀で敎父ベニアニはオウナラスカ島に逗留すること十年、その間一回の戰爭をも目睹せず、ロッスは戰鬪の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

武器を有せざるラッフキン嶋の住民をして、爭鬪戰爭と云ふが如き言語の意味を了解せしむる能はなかつた位である。プシア・フエリクス嶋の全土に於て殺人事件として知られたのは只だ一つで、何人も加害者と關係せず、凡ての者は彼を忌避した。極端に平和を愛せる彼等は、彼等を命令指揮する者の意志に從ふ。從ふ事は彼等の嫌忌する處ではあるが、然しそれにも增して彼等は戰ひ爭ふを厭惡して居る。若し或る青年が非禮なる態度で、自說を主張する事ありとせんか、その年長者等はよし反對の意見を抱いて居るとしても、冗談として、一笑に附し去るか、若くは『理由を說明せよ、恐らく君は何か新らしい事を知つてるのかも知れぬ』と云ふ。また恭謙なる事彼等の如きは少なく、讃辭を聞ては不安を感じ友人の前でゞも賞められやうものならそれこそ赤面するか、然も未知の客の前に於ける非難は、彼等を憤激せしむるに足る。彼等の隱忍克己を以てするも、猶時に急激な反動を起し、恐るべき憤怒の發作を作すを止め難い。

三

クックは彼等の心情の親切を賞讃せる第一人者であり、數年間ラブラドリア人の間に住めるカアトライトは、彼等の勇氣と忍耐その溫情と善意とは、到底言語では賞め盡せないと述べて居る。ホールは敍して曰く、『吾等は吾等の貨物一切——木材、石炭、タール、油、壺、索縄、網具、鎗、餌等、エスキモウ人には實物とも見らるべき一切の物品を荷揚した。此等の物品は監視を附せず放置されてあつたにも拘はらず、彼等は一にだも觸れなかつた。』流木若くは漂流物等を拾はせる者は、滿潮標の上にその獲物を置き、その上に石を載せて置きさへすれば宜い。よしや何人かそれを發見しやうとも、また發見者が如何に窮乏して居やうとも、決して手を觸れもしない。野蠻人中の野蠻人たるセイロン嶋のウエッダ人も亦、その發見せる樹に懸つた食物に對して、同じやうな敬意を有して居る。

正直と誠實とは姉妹である。虛僞を行ふ能はざるアリユウチア人は、嘘言せる者を憎惡蔑視すること甚だしく、決して再び語を交ふることをせぬ。その眞摯なる、一度何物かを他人に與ふる事を約すれば、最早それは自己に屬せざる物として身邊を却け、如何に必要があつても、借りる事すらせぬ。西歐文明國に行はるゝ地代說、永久に自ら生殖し、且つ他人の勞作に依て增加する資本、それ等は即刻必要無き一切の器具は喜らんで他人に貸與する、吾が善良なる土人にとつては如何に奇怪變異なる思想であるだらう。而して貸した物品が失はれたり、毀れたりした場合と雖も、之を賠償せしむるといふが如き思想は、決して彼等の念頭には浮ばない。更に又、一度係蹄を仕掛けた獵人は決して之を取り去る事無く、之を訪へる者はその何人たるを問はず餌物を持ち去り得るのである。漁獵の場合には、未知の人すらも曾て作れる事無く、將た仕掛けたる事無き堰に依て利する事を得る。一切の餘分な、鯨の如き大なる、或は極めて稀な種類の餌物は、共產部落に屬し、而して各人はそれに分前を有する。家族の酋長にして小舟と橇、自身の衣服と武器、並

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に數個の器具の外、他に何物をも有せざるの稀でない。

四

捕獲されたる一切の海豹は、少くとも缺乏せる時期に在ては、一家族內の凡ての群の間に分たれる。彼等の之を分つ精密を缺くと云ふと雖も、それは畢竟大部分が幼兒に獻げられるからであつて、次で青年が若干を得、年長者は永い間何物を受くる事が出來ない。エスキモー人種の性格の共產的なる、彼等が何物かを所有せる時、彼はそれを他の部全體に與ふるか、或は分つのを以て誇りとし、常に稱して曰く、『受くるより與ふるは幸ひなり』と。デールは左の如き情景のユコン河岸に起れるを記して居る。『近隣の人は悉く招待せられ、遊戲、唱歌、舞踏、及び酒宴は數日間に亘つた。最終の夕、一切の豫備品が費やし盡されたので、主人夫婦は新裝を纏ふて贈物を爲し、各自に相應しいと思はるゝ物を列席者に與へた。斯して彼等は小銃十挺、衣服十裝珠玉二百顆、狼皮十枚、牝鹿の皮五十枚、海豹の皮百枚、海狸の皮二百枚、黑貂の皮五百枚、其他多くの毛布を引出物とした。其後で、夫婦はその衣裝をとつて之をも與へ終り、更めて襤褸を纏ふて衆に告げて曰く、予等は諸君に予等の愛情を示した。今、予等は諸君の何人よりも貧しいが、然し決して悔ひはせぬ。予等は一物を剩さずとは雖も、諸君の愛情は予等に滿足させると。此の宴會は十五年間の勞苦、節約及び窮乏を一夕に賭したものであつた。』若し夫れ優遇の一事に至つては、戶外より入り來れる者は既に家內に在る者と同じ毛布の下に、暖かい室內に座するを得る。ホールはいとも懷かし氣に、彼が一日凍えて歸つて來ると、一老婆あり彼の凍えた足をよく磨擦した上、己れの胸に入れて更に暖めたことを述べて居る。

持てる者は、持たざる者と分ち、饑えたる者は一言の陳謝若くは懇願無く食ひつゝある者の傍に座して手を皿に觸れる。而して常に猜疑心に富み動もすれば冷酷なる判斷を下さんとする歐羅巴人は、笑止にも此の共產的習慣を以て偸盜掠奪と思ひ誤つて居る。實にラポツクの云へるが如く、『是等のエスキモーは他の如何なる種族よりも、宗教少なくして同情が多い』のである。

五

然らば政府に關しては奈何。げにアリユウチア土人は、露西亞人の來つて彼等を壓抑征服せる迄は、眞に何等政府と稱すべきものを持たなかつた。何人も命令せず、また何人も服從せぬ。捕鯨者と魔法使とは智慧と勇氣との爲に上長者と認められては居るが、然し何人でも勝手に辯駁される。老人も亦公けの相談役の如き勤めをするが、その從はるゝは只それが一般の希望だからである。一言にして悉せば、エスキモーと雖も大望を抱かざる者では無いが、然し彼等は強大ならんよりも優越ならんを欲し命令よりも指導を望んで居るのである。彼等は吾々のやうに、その前へ出ると戰慄しなければならぬ權威を要さない。彼等は正義を劍戟を以て、或は權威を棍棒を以て武裝せしむるを要さない。牢獄無く、巡査無く裁判官無く、探偵無き、是等の憐れなる野蠻人は、酷く憐れむべき者であら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うか。

ベーリング及びチリコフの探險後二年にして、一千七百四十一年、軍曹バツソフなる者カムチャツカに駐まり、骨を以て小舟を作り、アリユウチア嶋に赴むいた。同四十五年には、他の露西亞人ミハエル●ネヲドシコフは同群嶋を訪ひ、その歸るや北極狐、熊、海獺等の高價貴重なる獸皮の、此の遠き海角に充ち溢れて居る由を云ひ觸らした。彼の驚くべき物語は冒險好な人間の慾心を煽つて、如何なる犧牲を拂ふとも到達せんと決心せしめた。單獨に若くは隊を成して出發せる冒險者等は追々その數を增し、自ら無辜平和なる土人を從へてその上に處り、間も無く彼等を奴隸の如く驅使するに至つた。

同六十四年、露西亞政府は同群嶋の事業一切を擧げて、彼得堡に政治上及び管理上の本部を置き、イルクウトスクに支店本部を置ける『西比利亞米利加會社』に拂ひ下げた。彼の「東印度商會」の計劃に倣つて、是れ亦クウリルス及びアリスウチア群嶋を征服し、北緯五十四度から北氷洋にかけて米國大陸に地歩を占め、且つ日本に到るの捷徑を得て以て大に爲す處あらんとした。而して先づ兵士を徵募し、要塞を築造し、軍旗を掲揚するの權利を與へられたが、その代に純益の一割を皇室の利益として納むべき規定に服從せしめられた。

六

文明の代表者は大砲と、葡萄彈、及び壯麗なる宣言書を持つてやつて來た。彼等は自ら稱して、西歐の技術と工業とを齎らしたと云つた。彼等は正統派宗教の使ひ古せる、永遠の福祉を齎らした。彼等は斧、小刀、鐵、銅、木材、毛布、多くの必要品を齎らした。何よりも彼等は、その爲には野蠻人が靈魂迄も賣り拂ふ、恐るべき強烈なる火酒と煙草とを齎らした。一日、業務の顯官は布告して曰く、爾今狩獵及漁業の獲物の一半は、必要に應じて更に適當に分配する爲に、當該官憲に交付すべしと。單純なる土人は、彼等の賓客が彼等自らよりも更に大なる知識と公平とを以て、分配を行つて吳れるのであらうと思つて、容易にその布告に從つた。謂ゆる文明の使徒は博愛の假面を脫いだ。露人は季節を意とせず、その勞苦の餘に成れる獲物を掠奪した。收稅夫は殺人者となり、その或る者は是等の憐れなる土人を列を組んで並ばせ、一發の彈丸が一度に幾人の頭腦を貫通するかを實見して娛しみ、亦その妻や娘を人質に取つた。（ソウエル、ビリング探險記所載）

一七九九年、事業は――政府筋の報告にして信を置くべくんば――商業と農業との發達、科學的發見の遂行、正統派信仰の宣傳、即ち文明の事實の完成の爲に、組織し直された。その爲に會社はその權利と特典とを確認せられ、更に會社が兵士の供給を受くる皇室の、代表者及び委員に變へられ、而してその條件に對する違反は直ちに犯罪と目さるゝに至つた。既に自ら臣民として隸屬せるアリユウチア土人は、奴隸として取扱はれ、給料をも食物をも與へらるゝ事無く、強制的勞働を以て壓倒せられて了つた。されば提督リユトクに從つて此の地に到り、有ゆる

役所に自由に出入するを得た博物學者キトリツツは、事實を公表するの大膽をば敢てしなかつたとは云へ、その片言隻語、猶且つ人をして思ひ半ばに過ぐるものあらしめる。彼れ記して曰く『露米商會は十八歳より五十歳迄の男子全人口中、その一半をして全然義務的なる賦役を課して居る。而して此の男子は、六ヶ月間を海棲動物の捕獲に費やし、他の六ヶ月を狐の狩獵に從つて居る。故に斯の如きの境に在つて、果して幾何の人口が、一家族の必要窮乏を補ふ爲に殘さるゝか、人をして殆んど了解に苦しましめる。』

七

基督教徒と文明人との七十五年間は優に同群嶋を涸渇せしめ、致命の重傷を與ふるに足りた。嶋は毛皮を生ずる動物に富んで居たが、その爲に毛皮獸は悉く根絶せしめられた。發見後三十年間に、プリビリオン嶋から取り去られた海豹の毛皮、實に二百五十萬枚。而して一年間に（一七八七年、一八一七年）約八十萬枚の毛皮が倉庫に積まれた程、多くの動物は殺戮せられた。然も是等の毛皮は、直ちに賣口が見つからなかつた爲に、その大部分は燒却されて了つた。然し乍ら、斯の如き事業方法は、必然にその論的結果、即ち破産に導びき、究局、その掠奪に要せる費用は利益以上に上り、竟に群嶋は一八六七年を以て、生殘せるアリユウチア土人諸共、北米合衆國に賣渡されて了つた。

米國はその手に委せられたる新領土に對して、將た如何の策に出でたであらうか。彼等は如何に土人を取扱つたらうか、恐らくは亦、レットスキン（北米の土人）族に對せるが如くではなからうか。然らずして、彼等此の不幸なる種族を蘇生せしめんと欲するも、斷末魔に在る者にとつては無効である。若しや最後の苦痛を減ぜしめんとせば希くば彼等をして急速なる手段を執らしめよ、飢餓と疲勞とに困憊せる種族は、その生存を嫌厭して居る。抑々また、何の理由あつてか、養ふ能はざる子孫を生まんとは欲すべき、されば一七九一年、チエリコフの統計によれば人口五萬に餘つて居たが、一八六〇年に至つては、僅かに一萬以下に減退した。デールが訪へるアウロンダウ嶋に在ては、二千四百五十の人口中、死亡率は出產率の百に對して實に百三十を示して居る。而して是等イノノト族の間に最も猛威を逞しうせるものは肺病で、從來曾て知られざりし此の文明病は、他の有ゆる疾病よりも一層多く土人の生命を奪つたのである。

斯の如くして、彼等自身に一切の信賴を失つた彼等は、生存上の有ゆる快樂、及びその自然の性癖すらも失つて了つた。彼等には最早や喜び無く樂しみ無く、最早や歌謠無く舞踏無く、最早や怪異無く滑稽なる奇想が無い。是等の民族は猶幼兒ではあるけれ共、然も幻滅の幼兒である。あゝ幻滅の幼兒よ！、是等あはれなるアリユウチア土人の最後の一人が消え去つた時、文明人は云ふであらう『憐れむべし』と―。

（第二章『西部イノイト族』後半抄譯）

附記。兄のエリゼ●ルクリユと弟のエリイ●ルクリユとは、共に有名なる無政府主義者であり、又地理學者である。『原始民族』は弟のエリイの著、原始人の生活を研究するには、見逃す可らざるものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

事實と解釋（植民地の叛逆＝印度＝安南＝臺灣＝朝鮮）

大杉榮

■植民地の叛逆

九月の末から十月一杯にかけて、最も僕等の注意を惹いた新聞記事は、東洋の各植民地に頻々として起る、暴動的叛逆の事實の報道であつた。

植民地は、征服の事實を、最も赤裸々に語る處である。征服者が一切の權利と利益とを壟斷し、被征服者が一切の義務と犧牲とを負擔する、有史以前からのそして又種々なる形式の下に今日まで連綿來たつた、一大事實の縮圖を示す處である。從つて植民地に於ける此の征服の事實及びそれに對する叛逆の事實を研究する事は、直ちに人類社會史の基調を闡明する事となる。

しかし複雜なる征服の事實の下にある僕等被征服者は、等しく亦僕等の主人を主人とする、極めて單純なる征服の事實の下にある植民地の被征服者と同じく、斯く如き研究の自由なる言論を許されてゐない。主人を同じくする僕等被征服者の間には、お互の同情すらも、あからさまには出來ない。或は斯んな事ですらも、餘り無遠慮に書き立てゝは、いけないかも知れぬ。

そこで僕は、僕自身の殆んど何等の議論も註釋も加へずに、只だ諸處の新聞紙に現はれたまゝを、次に拔書きする事とする。

■印度の革命熱

先づ最も遠い所から云へば、印度の革命熱である。『時事新報』に據るに、

英國の政界には餘程前から『印度の不安』なる語が釀されて居たが、近來踵を接して起る印度の叛亂は稍重大な意味を以て觀られる樣になつた。

印度の革命思想は日露戰爭で東洋人の日本が捷つたといふ眼前の事實に刺戟されたものたと言はれて居るが、久しく根ざして居た印度の革命は歐洲大亂を動機として勃發した傾きがある、印度に駐屯した英兵は戰亂と共に僅か五萬を殘して本國に引揚げられ同時に廿萬の印度兵も歐洲の戰地へ送られたが、戰線の印度兵は切りに手紙を郷黨に送り歐兵の軟弱を嘲つて印度の革命思想を煽つたと傳へられて居る。現に印度では八月の末から西北國境のバルチスタン附近で「數千の叛兵起り、今尙討伐に向つた英兵と一勝一敗の間に砲火を交へつゝあるが、革命の導火線は、本年の三月に印度總督の暗殺を企てたラホール事件から引續いて、新嘉坡、錫蘭、香港、孟買などが暴動現はれ、去る六月には米國の某港から六千挺の銃器が密に孟買に陸揚された事實があり、夫れ以來英國政府は革命黨に對する新法令を布いて嚴重に取締りつゝあるが、今尙ほ革命の恐怖から、脫する事が出來ない。ラホール事件では二千餘名の嫌疑者を捕へ、百五十餘名の革命黨員が處刑されたが此事件と前後して多數の黨員は米國や日本へ亡命し、現に東京にも印度革命黨の首領株ビー●エヌ●タクール、エッチ●カプタ、ビー●エス●タック其の他十數名の亡命者が流寓生活を續けて居る。彼等は『孫一派の支那革命黨員が日本で安全に亡命生活をして居るのを見て遙々日本へ逃げて來た』と嘆じて居るが一部の士人間では日本政府として英國への氣兼は然る事乍ら萬一の場合國事犯人を英政府に引渡す樣な事があつては日本の國辱なりと稱し密に亡命客等の身の安全を企畫して遣て居る。

■タクール氏の談話

『東京朝日新聞』が、此のビー●エヌ●タクール氏の談話として掲ぐる所に據るに、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

□氏は、年齢恰も三十、曾てカルカッタ大學に業を了へて文學士たり、次で米國カリフォルニヤ大學に遊びて歸國し、印度總督暗殺のラホール事件に連坐し、事成らずして亡命の餘儀なきに至れり。由來英國官憲の印度革命黨に對する警戒は頗る嚴重周到にして、三億の民衆中武器を携へ得るもの僅に一萬に過ぎず。然も小銃の照尺は三百米突以上の照準を許さゞれば、到底大事を決行するに術なく、又苟しくも二三集會して政治を論ずれば輒ち捕縛せられ、新聞紙は悉く英國人の發行に係りつゝある等

「印度革命の將來は支那の夫に比し更に悲觀すべきものあり。但し民心の革命熱は未だ容易に絶滅すべくも非ず。現に印度の西北邊境には多少の動搖を釀しつゝあり。加ふるに歐洲戰に參加しつゝある印度軍約二十萬の同胞よりの通信に依り、西歐文明諸國の實狀忌憚なく暴露せられ、東亜に對する西歐文明の權威は今次の大戰に依りて少からず失墜せるが如し。乃ち東亜各國民の獨立的精神は民族的自覺と共に今後次第に勃興するに至るべし。猶吾人の計畫に對し獨逸側より使嗾するやの風說あるも事實何等の交渉に接せず。

又、新嘉坡に印度兵の叛亂があつて、日本水兵をして漸くに鎭壓し得た事は、九月頃の各新聞紙によつて報ぜられた。

■佛領安南の叛亂

次ぎには、久しく雲南に在りし東京農科大學助敎授林學士河原勘次郎氏が、歸朝の途次長崎で語つた談話として『大阪朝日新聞』によつて、佛領安南に於ける大規模の叛亂が報道せられた。

□一昨年貴州より唐繼堯將軍の轉任して雲南に入るや、一部に反對派を生じ、其餘波として昨年一月及び五月、大理臨安兩府に叛亂起り、討伐したるに亂兵は銃器其他を携帶したる儘片田舍に逃げ込み、其後少きも八十人乃至百人多きは二百人乃至三百人を以て隊をなし、全く軍隊同樣の組織により路上喇叭を吹き鳴して白晝横行するに至れり。討伐軍の向ふ事あるも神出鬼沒更に其効なかりしが、彼等は漸次南方に集合し、常には雲南省の境を越えて安南に入り、目今は雲南、緬甸、安南の境なるメンウーを中心として、

安南の革命黨及び同地方の蕃人シャンを集合し、約一萬人の同勢を以て佛蘭西政廳に對し、叛亂を起すに至れるなり。佛蘭西政廳は大に狼狽し、某陸軍少將を司令長官として土人及び佛兵よりなる約三千人の軍隊を以て討伐せしめたるが、容易に其目的を果する能はず、更に軍用列車による一大隊の兵を雲南より輸送したり。東京(トンキン)にては昨年來より叛亂續出したるも、今回の如き大規模の叛亂は曾て其比を見ず、結局某國が或る交換條件の下に出兵するにあらざれば鎭壓するに難かるべしと稱せらる。佛政府は極めて事を秘密になし居れり。

■臺灣土人の[illegible]

斯く印度、新嘉坡、安南と云ふ風に、だんだん近づいて來ると、お次ぎは臺灣の番になる。そして此の臺灣からは、匪徒一千幾百名死刑五百何名と云ふやうな、臺灣總督府民政長官發内務省宛電が、もう一ケ月ばかりの間毎日飛んで來る。

今其の最近の着電に據るに、

十月二十日臨時法院に於て匪徒五十四名に對し判決を言渡したり。内死刑四十七名、懲役十五年五名、同十二年二名あり。

そして新聞紙の、更にこれに附け加ふる所に據れば、

因に本日までの死刑累計は五百五十二名、懲役十五年十三名、同十二年 十九名、同九年三百名、無罪三名にして、本日までの處斷者總計九百〇七名なり。

此の死刑の宣告を受けた匪徒九百餘名は、臺南監獄で、二十日から毎日二十名乃至五十名宛死刑を執行されてゐるのであるが、猶毎日四五十名宛の新しい犧牲があつて、檢查官

は大抵死刑を求刑してゐるので、結局死刑は八百名餘に上るべく、從つて其の刑の執行を終るは十一月下旬であらうと云ふ。

■千人寡婦の悲劇喜劇

「時事新報」は、千人寡婦の悲劇喜劇、臺灣陰謀の匪徒所刑に就いてと題して、次ぎの如く此の事實を語つてゐる。

十月迄に起訴せられた匪徒の數は合計千二十六名で、内既に判決の濟んだものが八百六十名ある。更にこれを細別すると

死刑五百九名、懲役十五年七名、同十二年三十八名、同九年三百名、無罪三名、死亡七名

で、審理未着手の者が百二十名あつたが、其中漸く審理が濟んで近々判決されるものが五十四名ある。尚此の外四日に起訴されたものが四十三名で、別に檢擧されてゐるのが約四百名もある。公判はこゝ一二週間ばかり休止のことになるだらう。

□其の裏面　さて右の如く、夥しい匪徒の所刑を見つゝある裏面には種々な悲劇喜劇が隱れてゐる。哇吧哖（タパニイ）支廳下の土匪村だけを覗いてみても、現に千二三百名の新しい寡婦が出來た。夫等の亭主といふのは暴動當時軍隊と戰つて銃殺されたのもあれば、哇吧哖支廳内で騷擾を働いて臨機の處置を取られたのもある。又死刑にやられたのもあれば長い懲役に處せられて容易に歸つては來ないといふのもある。

□凌ぎの場所　斯うした寡婦や孤兒は、或一定の場所に收容されてゐるのもあれば、何所に落付くことも出來ず、暴動によつて燒かれた跡に假小屋を造つて漸く雨露を凌いでゐるのもある。内［地］人の一隊がそこを通ると、彼等は路傍に佇んで、いかにも悲し氣に目送してゐる。中には十七八の若寡婦が乳呑兒を抱いて、芭蕉の葉蔭に淋しく佇んで、何か物思はしげに沈む夕日を眺めてゐるのもある。

□土饅頭の數　誰も分らぬ五つ六つの子供が燒けてしまつた我家の跡を探つて、穴開錢を拾ひ取り、砂や水で洗ひ磨いてゐるのもあれば、栴檀（せんだん）の實を彈丸に擬へて戰爭事をしてゐる腕白もある。中には搜索隊に付いて入りこんで來た苦力などゝ馴染を通じて新しい家庭にさきの悲しみを忘れてゐる大に嘗つたのもあるといふが、とにかく彼方の村此方の村に新しい土饅頭ができて、鬼哭啾々のありさまは何としてもよい心持のものではない。

□棺桶の製作　斯んな話もある。といふのは確定の外にまだ澤山死刑の宣告を受けさうなものがある樣子で、最終までには千人近くにもならう。之を臺灣三監、六箇所の死刑臺に上せて、一人に十五分間かゝるとしても非常な日子を要する。一方にはどしどし判決ができる。一方には棺桶を作る。其忙しさは丸で戰爭の樣なもので、匪徒蜂起の際に討殺された者を合すると約三千人は埋められる譯だ。

■大慘事の原因

斯くの如き大慘事を惹起した事件と云ふのは、今其の切拔を無くして了つたので遺憾ながら詳細に述べる事は出來ないが、其の一部分たる次の如き臺北新庄事件（「大阪朝日新聞」に據る）を見たゞけでも、容易に其の全般を窺ひ知る事が出來よう。

「臺北廳新庄事件被告は、總て七十人既に起訴されしが、首魁は逃亡して未だ縛に就かず事件の張本人は新庄街料理人楊臨（三十一）といふ無頼漢にて、豫て新庄支廳の仕打に不平を懷き、機を見て支廳を襲ひ、警察官を殺害し、首尾克く行かば更に爲す所あらんと、本年二三月頃より同志を糾合して、

「革命黨を組織し、支廳に對し不平ある者租稅の負擔重きに苦しむ者等を說きて加盟せしめ、臺灣を日本の手より奪還して支那政府の下に復歸せしむべしと說き、陰曆三月同志を集め、十名を小頭に任じ、愈々黨勢を擴る事に謀議一決せり。然るに其後南部に優勢なる暴徒蜂起せりとの事を聞き、彼は事を擧ぐる

俟此時なり機失ふべからずと、陰曆七月三日夜同志會合し、十五日夜卽ち八月二十五日月明に乘じて支廳襲擊を實行する事を決議したるも、同志の一人が中途變心して此事を支廳に密告したるより發覺したるものなり。

そして此の南方部に於ける暴徒の事件に、就いては、其の餘波として、次ぎの如き事が傳へられてゐる。

「臺南市內東巷街西來庵は、昨年六月以來今次の陰謀事件の本營となり、又其廟內にある所の神像は迷信の中心となり、其迷信は大に匪徒の利用する所となりたれば、臺南廳にては事件暴發と同時に同庵門を竹矢來を以て封鎖し居たるが、近頃に至り廳參事區長及同庵管理者協議の上、同庵の神像及裝飾品等一切を燒却して、以て迷信を一掃し、禍根を斷ち庵の建物は之を臺南廳に寄附することゝなり九月二十五日午前十時警官立會の下に神像及裝飾品等凡そ三千點は烟の中に消え去りたり(『大阪每日新聞』)

■朝鮮人と陰謀

最後に朝鮮が來る。そして此處にも亦、目下或る陰謀事件が審議せられつゝある筈である。尤もそれは、詐僞取財と云ふやうな名義の下に取扱はれてゐるが、滿更詐僞ばかりでもなさゝうだ。何れにしても朝鮮は陰謀の國である。殊に明治三十九年かの保護條約以來は、元老閔泳煥の憤死、安重根の伊藤侯爵暗殺、尹致昊等百五十餘人の寺內總督暗殺の陰謀、碩學崔益鉉、李麟榮等の各地に於ける暴動、其他殆んど數ふるに遑がない。

■亞洲和親會

こゝまで書いて思ひ出すのは、七八年以前に、日本、支那、朝鮮、安南、非律賓、印度等の同志が相謀つて、亞洲和親會を設立した事がある。

其の會員としては、近く北京で袁世凱の爲めに毒殺されたと云ふ風評のある所謂民族主義者の章炳麟、先きの參議院議長であつた無政府主義者の張繼等、多くの支那人、共和主義の多くの印度人、そして堺利彥、山川均、及び僕などの日本の社會主義者や無政府主義者が、其の大部分を占め、旣に二三回の會合を遂げて、將に諸種の活動に移らんとしてゐたのであつたが、例の赤旗事件の爲めに日本の同志は獄に投ぜられ、次いで支那及び印度の同志も日本政府の強壓に餘儀なくされて各地に離散し、遂に何等の効果をも擧げる事が出來ずに解散して了つた。

其規則の中の數項を次に掲げて、此の植民地の叛逆一篇を終る事にする。

一、本會宗旨。在反抗帝國主義。期使亞洲已失主權之民族。各得獨立。

一、凡亞洲人。除主張侵略主義者。無論民族主義。共和主義。社會主義。無政府主義。皆得入會。

三、亞洲諸國。或爲外人侵食之魚肉。或爲異族支配之傭奴。其陵夷悲慘已甚。故本會義務。當以互相扶助使各得獨立自由爲旨。

四、亞洲諸國。若一國有革命事。餘國同會者應互相協助。不論直接間接。總以功能所及爲限。

■死刑囚九百三名

猶本文校正の最終日、二十九日の『大阪朝日新聞』夕刊によれば、右の如くにて大凡終結したと云ふ。

二十七日臨時法院にて匪徒二百七十九名に對する判決宣告されたるが、內死刑二百三十三名あり。三十日新庄陰謀團に對する判決あると同時に本件公判全く終決となり、臨時法院は閉鎖さるゝ筈なり。同法院は八月二十日開設され、二十五日を第一回として公判開廷二十八、被告人總て千四百十三名にして、內死刑九百三名、懲役十五年十五名、十二年五十九名、九年三百五十九名、無罪七名其他は新庄陰謀團にて判決未濟に屬す。死刑は客春、余生芳等首魁十餘名、外は去る二十三日三十五名、二十四日三十名に對して執行されたるのみにて、其後又々中止され居れり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

英國大罷工の背後

荒畑寒村

先頃、英國ウエールス石炭坑夫十四萬五千人が、賃銀値上を要求して罷業した。此飛電に驚いたものは、啻に英國の政府當局者のみではあるまい。殊に此の國運を賭する大戰の最中に於て、また謂ゆる擧國一致內閣の軍法會議的憲政治下に於て、是れは儼かに晴天の霹靂であつた。而して紳士閥新聞は、筆を揃へて此の大罷工の背後に獨逸人あることを述べて、以て勞働者の非愛國心を痛罵した。然し乍ら、此の英國全土の上に寄せては返す產業的不穩、勞働紛議の波瀾の背後に在る勢力の、果して獨逸人であるか、將た勞働者自身の自覺であるかは、過去數年間に亘れる一般勞働界の情勢傾向を知れば、自ら明らかになる筈である。

■勞働組合の缺陷

約二十二年前、勞働組合主義者は資本家から實質上の讓步を贏ち得、坑夫同盟は四割の工貨增加を獲得し、波止場人足は彼の歷史的な一時間六片（一片は約四錢）時間外仕事一時間八片の增加を主張して勝利を得、而して倫敦の石炭人夫の賃銀は、一週間二十四志（一志は約五十錢）から一躍して三十二志に向上した。こうした成功は、勞働組合の活動に非常な猛勢を與へたものであつたが、然しその自然の結果とも云ふべきものは、即ち資本家が奮發一番するに至つた事である。而して幾何も無く、彼等は啻に組合の要求を拒むに足れるのみならず、更にまた、賃銀の減額、或ひは現在の勞働狀態の改正に對する、彼等自身の要求を强制し得る位置に達した位までに、有力に發達したのであつた。

此の時に當つて、社會民主黨は熱心に階級鬪爭を宣傳し勞働者の左黨の間に社會革命の思想を有效に普及させた。フエビアン協會は社會主義文書の著述出版に急がしく、實際的政治の宣傳者たる獨立勞働黨は、勞働階級の大多數を味方にした勞働組合主義者は、猶多くの力と資金とを有しては居たが、その組織の基礎が職業制度——即ち少數の勞働者が職業別に從つて作る狹義なる組合——に在る爲めに不利の位置に在り、漸次資本家の手足となつてしまつて、勞働組合の首領達は、同盟罷工の際に却つて勞働者を裏切つたり、失敗させたりするに至つた。

■獨立勞働黨の運動

次に現はれたものは、政治上の動搖であつた。一千九百一年に於けるタッフ・ベール判決は、勞働組合をしてその役員一個の私利私慾の爲めに利用され得るものとするやうな法律を作り、而して實際に、平和な監視や勸告をも、法律に依て罰せらるべき違法行爲となさしめた。社會主義者は一致して、部分的同盟罷工に依て、賃銀を增し若くは勞働時間を減ぜんとするの無效を示し、その政治運動に對する不斷の傳道に加ふるに、タッフ・ベール判決に對する反

對の氣勢を煽動せる結果、社會主義者及び勞働組合の聯合實現され、一千九百六年に至つては、三十人の直接及び獨立の勞働者代議士が國會に出でた。多くの勢力は勞働の目的に政治的表現を與へる爲めに働らいて居たが、然も當時に在つて、明らかに獨立せる政治的勞働黨を可能ならしめた團體は、獨立勞働黨だけであつた。それは一千八百九十三年ブラッドフオードに組織された處で二年後同黨は二十八人の代議士候補者を選擧場裡に送る迄に發達したが、然し二十八人中當選した者は一人のケア・ハアディあるのみだつた。爾後十六年間、黨は堅實に發達し、眞摯熱誠なる多くの男女はその支部建設の爲めに盡したが、就中同黨を強い戰鬪團體となし、勞働組合を獨立せる政治運動に加はらしむる上に最大の力を致した者は、フサリップ・スノーデンであつた。

■議會政治の腐敗

然るに、議會制度は勞働者を緊張して、一二年にしてその熱誠を亡ぼしてしまつた。通常の勞働者代議士が迅速に馴らされるのを了解するのは極めて容易で、彼等は往時勞働組合が迫害され、ウエストミンスタアに這入れるといふ希望が、頗ぶる薄弱だつた時にこそ熱心に戰つたが、一度その希望が實現さるゝと共に、理想の破産に陷つてしまつた。その最大なる野心大望の絕頂に達したる彼等は、成功の爲めに壓倒せられ、彼等に當面せる夥しい事業の前に無力無能になつてしまつた。

社會主義者の不平は最も甚だしかつた。彼等は全勞働組合運動が、近き將來には社會主義の思想にすつかり染つてしまふと信じて、勞働組合と聯合したのであつたが、彼等は非常に失望した。社會黨代議士は黨の最も遲い、而して保守的な一派の爲めに、その步調を抑制されて居ると非難され當時獨立勞働黨の會長で、また勞働黨の幹事だつたラムゼイ・マクドナルド一派の如きは、殊に猛烈に攻擊されたものである。

ラムゼイ・マクドナルドは、勞働運動に於て最も誤解された人々の一である。彼はその黨中でも最大の知識力であつたし、また今でもそうだ。然し勞働者を扶けんとするの眞摯な望みは抱いて居ながら、勞働者自身に何が出來るものかといふ強い信念を持つて居るので、彼は民主制に疑ひを挿むやうになつた。從つて彼は勞働者と親密になることも出來ず、同感も、共鳴も出來ず、勞働者大多數の心持といふものが解らない。勞働者は亦、彼を異なれる階級、異なれる型の人間だと思ひ、正直に彼に敬意を拂ひながらもその聰明に對しては一點の疑義を挿さむで居る。畢竟、彼は知識的に社會主義の位置を抱んだのだが、然し感情的には集産主義的自由黨であつて、よし彼が自由黨に加はつたとしても、何人も敢て怪しとせぬであらう。が兎に角、彼の力倆は勞働者をして黨を實際に彼の手に歸せしめたのだ。

■勞働黨の威望失墜

不滿足は獨りマクドナルドに限られた譯では無い。何と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なれば、議會の記號はすべての勞働代議士に見られるやうになつたからである。彼等は漸次、政治的遊戯に耽溺し、社會主義の宣傳者と勞働組合の役員とから、勞働者の單位を政治的將棋盤の上の卒と見ること、他黨の黨員がその選擧民を政權に達する階段と見ると些しも變らざる、半道樂の政治家となり了した。

勞働組合の組合員は、産業的手段は用ひ盡されたと說破された爲め、勞働組合主義の産業的手段を疎外し、その政治上の首領が議會といふ機械によつて、一切の疑問を解決して吳れると思つて居た。その結果の、非常な失望落膽に過ぎなかつたこと、固より云ふまでもない。よし、黨か成功したからと云つて、其維持者か皆滿足した譯では無い。辛ふじて食ふだけの賃銀しか得られざる勞働者は、國會に於ける代議士の質問、政府委員の答辯、大臣の演說、諸法案の討議通過、そんな物よりも一週間一志の賃銀値上の方が、餘つ程重大直接の問題なのである。數十年間、失業者を存在せしむる社會制度の缺陷を、解剖非難せる煽動家の言語に傾聽し來れる失業者は、此の煽動家が一度ウエストミンスタアに入らば、彼等が惱むれる苦痛を除く上に、必ず何等か强力にして有利なる手段を講ずる事を期待する。彼はその困難を了解せず、またそれには一向介心しない。煽動家は自分にたしかに出來ると信じて、『予を議會に送れ然らば一切の困難は立地に解決する』と云ふ。然し乍ら、彼は竟に何事をも仕遂げない。彼は一心に働らかなかつたし又其最善の努　と雖、成功を贏ち得たか否か疑はしい。

その勞働組合に會費を拂つて居る、普通の勞働者には、失業問題は勞働黨の大失敗の證明である。何となれば、議會に於ける六年間の後、その勞働の權利法案は、全然忘却されたるかの觀があるからである。從來、勞働階級の唯一の戰鬪的示威運動といふものは、何時も失業者に依てのみ行はれたもので、行列工業的中心地の街衢を通じて進行ししばしば警察官の一隊と衝突して、その首領や指揮者を下獄せしむるやうな椿事を惹起した。而して彼等が議會から得た唯一の標識は一千九百八年十月、キクタア・グレイソンが、失業問題を討論する爲めに、議會の閉會を延期せんことを動議して破れ、大怒號をやつた位ゐなものである。

■直接行動の勝利

グレイソンが議會で怒號咆哮をやつてから、多くの興味ある發達があつた。彼等の政策に不滿足なる一派の攻擊の結果、獨立勞働黨の建設者の中、マクドナルド、スノウデン、ハアディ、及びグレエサアの四人は、一千九百六年三月の大會で内國評議員の位置を辭職した。翌年七月、その後任者は勞働黨の溫和政策に反對せる宣言書を公けにした爲め、更に紛議を釀した。

此の時に當つて、勞働階級は益々不平を抱くに至り、その賃銀は一向上る見込が無く、その生活費は愈々多くなつて往く。彼等は政治を嫌惡し、政治家には全然信用を置かず、只管資本家を攻擊する何等かの手段を欲した。勞働組合の首領と資本家との間に行はれた和解、妥協、調訂、讓

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歩も、勞働者には眼に見へるやうな利益を齎らさず、而して政治上或ひは産業上の努力に失望せる彼等は、竟に往昔の暴力應用の叫びを舉ぐるやうになつた。政治上の首領は全く信用を失した。彼等は勞働者の眞感情に觸れず、革命とは何等の交渉をも有せざる輩である。同盟罷工者の諸團體が示した決意と剛毅とは、彼等を驚かし又憤慨させた、

第一に反抗的態度を表はした者は、タインサイドの汽罐製造工で、資本家は自分勝手な和解條件を作り、勞働者の首領はまた之に同意せんとした。然るに勞働者自身は、孤軍援け無き位置に在るにも拘はらず、その首領を拋り出し最後まで戰つて竟に勝利を博した。而してスノウデンの爲めに、その無秩序に對する罪深き傾向趨勢を非難攻擊された！。同年即ち一千九百十年の秋、カムブリアン聯合に雇はれて居る一萬二千の坑夫は罷工して、一切の和解仲裁手段に耳を藉さなかつた。此の戰ひは勞働紛議に曾て見ざる頑固と執拗とを以て續けられ、その荒れ狂つて居た十ケ月間に、五百萬磅（約五千萬圓）を費やさしめた。同時に海員組合幹事ハベロック・ウイルソン、及びその背後に在つて忠告し、指導し、教訓し、實に殆んど監督しつゝあつた一婦人に依て、海員の間に一の煽動が行はれたのである。

■センチカリストの活動

此の婦人を誰とか爲す、露佛血統の貴族として、煽動家として、雄辯家として、同盟罷工首領として、新聞記者として、歐洲全土を通じて知られ且つ怪しまれつゝあるソルグ夫人、或はもつと親意に呼ばれて居る『ソルグ』、其の人である。彼女の最初の位置は『チュウルナ・デ・デバ』記者として始まり、次には、彼の輕薄なる社會主義の使徒たるミルランや、ビビアニ等が、『ラ・プチイト・レピュブリイク』を發刊して居た當時、その協同者であつた。一千八百九十六年、彼女は巴里コムミュン一揆のレッド・バアヂンたる、ルイズ・ミシエルと共に、倫敦に開かれた萬國社會主義大會に列席し、トム・マンやベン・チレットと友人となつた。其後、佛蘭西の社會主義者が議會に入らんが爲めに變節するや、彼女は議會政策主義を拋擲し、センチカリストとして海員の團結を助けんが爲めに英國に渡つた。彼女は主要な港灣に於て演說すること數十回、その直接行動の主義主張は、即刻の武器として歡迎された。

かの勞働界に於ける暴風雨裡の海燕とも云ふべきトム・マンは、十四年後英國アンチポードに上陸し、その古き獨立勞働黨から離れ、社會民主黨の理論を拋ち、直接行動の使徒として戰場に飛び出した。ベン・チレットもまた永い間沈默して居たが、再び戰場への路に出で立つた。

海員及び火夫組合のホキットサン大會に於て、國際的同盟罷工を避くるの機會を資本家に與へんことを、仲裁局に要求するに決した位までに、煽動が進歩したのであつた。造船業聯合は此の思想を嘲笑した。勞働者は之に應ふるに六月十四日の總同盟罷工を以てし、三日間にしてその要求せる工賃增加は百五十の船舶に許された。七月の中旬には海員の罷工は竟に勞働者の勝利となつて終り、次で波止場

人足の罷工が始まり、之に加ふるに、マンチエスタアの車力、ヒッパアン●オン●タインの金屬工及び綴釘職、並びにランカシヤアに於けるペンデルトンの坑夫等の小同盟罷工が起つた。同月の末、三萬人の倫敦波止場人足は罷工したホルキッチに於けるランカシヤア及びヨークシヤア鐵道工場では、數名の勞働者が追ひ出されたので、他の者は組合員も然らざる者も、仕事を罷めてしまつた。クリイドの造船工と機械工とは、賃銀値上を要求した。マンチエスタアに於ける機械勞働者は、一週間一磅の最低賃銀を要求して罷工した。船舶聯合は聯合の補充した勞働者に優先權を與ふる旨の布告を出し、またフル同盟罷工委員會は、他の同盟罷工を威嚇脅迫して中止せしめんとした。南倫敦の女工連は罷工し、倫敦及びグラスゴウの電車勞働者も亦、今にも罷工せんず形勢を示した。ベン●チレット指導の下に、倫敦の運輸勞働者等は、その斷乎たる戰鬪によつて全國を驚かして居た。之に加はつた十萬人中の一人と雖も、同員が悉く滿足する迄は斷じて復業せずと主張した。帝都の市民は、彼等が日常の食料品の供給が、主に此の陰慘たる河岸勞働者に據れるの事實を自覺した。病院の醫療に要する氷、幼兒の爲めの牛乳等を得るが爲めには、政府はチレット及び他の首領に哀訴嘆願して、勞働者に是等の品物だけは特別に取扱つて貰つた。やがて又、リバープールは騷の湧くが如き狀態に陷るり、罷工者の一揆叛亂、警察軍隊の羅織迫害、相次で起り、八月十四日リバープールの船主が工場閉鎖を宣言するや、船舶聯合の事務所は燒却された。

■中央勞働大學の設立

海員及び波止場人足の罷工は、全國の人心を驚倒せしめたけれ共、然もそれすら鐵道勞働者の僅か二日間に過ぎざる總同盟罷工に比すれば、殆んど云ふに足らざるものであつた。而して勞働紛議の背後に、新らしき勢力を發見するのは、實に此の鐵道紛爭に關してなのである。單に一個人の向上や教育の爲めとか、或ひは一層有効な勞働者となる爲めに、技術上の教育を受けるといふのでは無く、彼等に經濟的及び社會的進化、並びに近世社會に働いて居る種々なる勢力の科學的知識を與へ、以て彼等をして勞働者を社會に於ける支配階級の位置に擧ぐるの問題を、有力に解かしめんとする爲めに、一厘の金錢、一分の時間をも利用して、科學的知識を獲ることに汲々たる勞働組合主義者の數が非常に增して來た。そして此要求は遂に勞働者の一大學を創立せしめる程に進んだ。

十五年前、まではかうした教育を欲せる勞働者の數は非常に少なかつたが、然し二人の同情ある米國人、博士チヤアルス●ビアアドと、ワルタア●ブルウマンとは、是等の勞働者の爲めに牛津ラスキン大學を創設した。その目的は社會に反抗せる勞働者を集めて、組織的及び科學的にもつと合理的基礎の上に世界を再造する上に、彼等を扶ける如き教育訓練を施こすに在つた。大學はブルウマンの經學管理にかかり、文學士デニスヲハアド學長たり、而してブルウマンとビアアド博士とが歸國してからは、大學は獨立自

會せざるべからざるに至り、少時は一私人の經營に委ねられて居た。然るに勞働組合は漸くその組合員に學問をさせる必要を悟り、大學維持基金に寄附するやうになつた。爾後十二年間、大學は社會科學に關する知識教育を受けた五百人の學生を勞働界に送り返し、其他八千人以上に通信教授で知識を與へた。

然し乍ら、六年以前一層革命的な學生は同盟休校をやつて、講義に出席することを拒んでしまつた。そして自分達の間から、その反對せる講師に代るべき人間を選出した。蓋し是より先、學生等は既に幹部が動もすれば大學の目的を無視して、之を尋常一樣の大學たらしめんとするに不平を抱いて居たのである。そこで不平組と、舊學生の一部とは、プレブス結死と稱する一團體を組織し、ラスキン大學を普通の大學にするを止め、勞働組合主義者の間に發達し夫れに戰鬪的精神と密接の關係を保てる、純然たる勞働者大學となさんとするを以てその目的とした。彼等は幹部を非難して、ラスキン大學本來の目的意志を破棄せんとするものなりとし、戰鬪的勞働運動最善の利益に近き新精神を注入した。一千九百九年三月、幹部が不平組の頭領と目せる教頭デニス●ハアドの辭職を強ゆるに及んで、危機は將に目睫の間に迫り、竟に既に記せる如き同盟休校が起り、その結果、新らたに中央勞働大學が創設せられた。

此の二校の間の差異は、ラスキン大學が純然たる大學となり了り、大學教授を有し、卒業生には大學卒業證書を與へて大學思想を吸收せしめんとせるに反して、中央勞働大學は煽動者と改革者とを作ることを以て、その目的とすることを公言して居る。その生徒の如きも、既に勞働問題に通曉せる者のみで、まだ彼等に與へる教育といふものが一種特別のものだ。即ちそれは『廣汎』な教育を授けるとは申さない。何となれば、そうした教育は、單に個人に特殊の利益を與ふるに止まるからである。だから其の教育は、正直に黨派的で、歷史は支配階級の大事業の記錄に非ずして、古往今來社會を分つ諸階級の相衝突せる利益の爲めに社會團體に起れる鬪爭を記錄せるものである。マルクスの『資本論』は、その經濟學の教科書である。その社會學の解釋に對する鍵鑰は、即ち實に階級の利益であつて、それは社會團體を資本の所有者と、無資本者とに分ち、更に賃銀の爲めに働らける者全部の共通利益を示すのである。學生は通學生のみに限らず、北部の工業中心地、ウエルスの鑛山地、其他倫敦の勞働組合主義者の間に、種々なるクラスは中央勞働大學監督の下に開設されて居る。こうして多くの勞働者は、資本家と勞働者との利益の一致といふが如きは、最大の妄想謬見だとの見地から、教育されて居るのである。

■舊首領の勢力衰ふ

ラスキン大學から、中央勞働大學へ、その維持扶助を轉じた最初の大勞働組合の一は、鐵道從業員聯合協會であつて、今日では是れと南ウエールスの坑夫とが、その主な維持者である。是れは吾々が、彼等の革命的傾向に思ひを潜

める時、最も有意義なものとされるのである。一千九百十一年の鐵道罷工の際、最も戰鬪的な地方に於ける、主たる煽動者は、舊のラスキン大學の生徒、今は中央勞働大學の傳道者たる人々であつた。その一人はリバアプールに於ける編成者であつた。チエスタアフヰールド地方や、ミドランドに於ける主たる同盟罷工主張者は、中央勞働大學の出身者で、彼等は同盟罷工の起る餘程前に、一千九百七年の和解策を批評し、和解の政策を勞働者のハンデイキヤップだと非常に非難し、而して鐵道從業員の大集會に對つて、若し彼等がその賣る勞力に對する支拂ひを得ざる時は、價格を上げる最善の方法は、暫らくそれを引つ込めて市場を飢えさせるに在ることを、有効に證明した。現に中央勞働大學の産業史と經濟學の講師をして居るのは、八年前までバアリイ鐵道會社のブレーキマンだつたのが、二年間講師となる爲めに辭職したのであつた。罷工の前後から以來、彼は鐵道從業員の支部集會によつて、産業問題に關する講義の爲めに絕へず要せらるゝに至つた。

ソルのチイ●ダブルユ●ブラウンは、如何に靑年が事件を支配せるかといふ例證である。彼は二年間の大學敎育を受ける前までは、その土地以外には餘り知られなかつたが、その大學から歸るや、北東鐵道會社との三回の紛議に於て勞働者の代表者主任として働らいた。彼は總同盟罷工の間煽動者の急先鋒となり、またソル勞働評議員會、鐵道從業員聯合協會、地方評議員會、及地方勞働黨の役員をして居る。而して保守的な舊派の首領の代長者とも云ふべきボンテイブールのイイ●チヤアルスに對抗して、鐵道從業員聯合協會の編成長の位置に對する候補者に選擧された。

同じことは、坑夫の間にも起つて居る。曾てはあゝも用心深かつた坑夫等は、今や如何なる戰鬪の宣言にも準備して居る。此の新精神に染まつて居る數名の外、往時の首領は無視せられ、或は排斥せられて、靑年が勢力を占めつゝある。此の不穩の暴風雨中心、即ち南ウエールスの坑山地方に於て、一團の大學出身勞働者は勞働團體の役員に選擧された。而して一千九百十一年の英國坑夫同盟の南ウエールス實行委員の選擧に際しては、アブラハム（マボン）、ブレエス、及びリチヤアド等、古い型の三勞働組合主義者はバアカア、ハアトショウン、及びスタントン等の革命家の爲めに敗られたが、是れ畢竟、投票者の多數が中央勞働大學出身者に影響感化さるゝ處多いからである。

■直接行動の有力な一例

此の事が起した變化は、翌年の危機に於て證明された。舊派の役員は和解、仲裁、妥協を欲し、兎角近處に事勿れ主義を執り、就中『マボン』は痛烈に煽動者を非難した。それでも新らしい勞働者は、最低賃銀强制の爲めに同盟罷工に出でんことを決議した。

團結せる勞働者の間の一致共同の表現と、戰爭に對する一般の要求とは、勞働者が政治運動に不滿足を感じて、センチカリスムの武器が、一層その直接即刻の役に立つことを悟つた結果である。議會に在る六ケ年、勞働黨の政治家

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

はその立法部に於ける勢力の證據として、養老年金法案、勞働者報償法案、職業紛議法案、其他若干の些々たる法律案を有して居る。何れも甚だ結構な物に違ひ無いが、然し何れも直接に勞働者の消費力に影響して居ない。然るに賃銀に於ける目に見へるやうな差異は、直接行動をやつた工業に於て示されて居る。一千九百十一年六月の罷工の成功から、海員に加へられた餘分の金は、一年一百萬磅（吾が一千萬圓）の勘定である。而して此の百萬磅の力に、更にミツドルスブラウの前代議士ハベロツク・ウイルソンの、予が議會に於ける十八年間の活動は全く浪費に過ぎなかつたと云つた言葉が加へられて居る。リバアプールの、運輸勞働者罷工の首領だつたトム・マンは、リバアプールだけでも三萬以上の波止場人足が、一人平均一週八志の賃銀増加に加ふるに、彼等が今後働らくべき狀態に關して、種々なる讓步を贏ち得たことを主張して居る。英國に於ける他の都市にして、リバアプール程、勞働者間に發達せる協力一致の自覺を有力に示すものは無い。

是れトム・マンの最も強い處の一で、産業的戰鬪に於ける一致協力が、彼等のポケツトに金を入れるといふことが示される時は、不平を抱ける賃銀勞働者は、政治上ごころか、宗教上の異見爭論すらも、直ちに抛つてしまふ。故に工業組合主義を主張するのは、即ち單に最も抗抵の少い線に從ふ所以なのである。彼は更に、一度戰ひが始まつて、一切の黨派が團結せる時、勞働者を扶けるか、或は妨げるかする議會の不必要をば、同盟罷工最中の事實、即ち七千人の軍隊は銃劍を擬して市街を堅め、數千の警察官は倫敦其他の都市から入り込み、而して三隻の軍艦は砲門を船渠と市街とに向けてマアセイ灣に碇泊せるにも拘はらず、大西洋航路の大船巨舶と、一百五十隻の世界に於ける最善最美なる商船とは、身動きも出來ずに停止して居る實例を引いて指摘した。

[illegible]紳士閥新聞の[illegible]きをわらふ

斯の如きもの、是れ近き過去に於ける英國勞働運動の情勢であり、傾向だつたのである。即ち個人的には、專ばら保守退嬰を事とし、只管妥協讓步を能とせる舊い型の勞働組合首領は漸くその勢力を失墜して、センヂカリストが勢力を得て來た。運動の方面から云へば、政治運動、議會政策は排斥せられて、直接行動、經濟運動が之に代らんとしつゝある。殊に此大戰の最中に、大同盟罷工を敢行して謂ゆる擧國一致を嘲笑した南ウエールスの坑山地方には、チエドムス、ウインストンの如き、ヴエルノン、ハアトシヨウンの如き、最も著名にして且つ勢力ある同盟罷工主張者がある。這般南ウエールスの坑夫罷業を惹起した情勢の下には實に斯の如き過去あり、歷史あり、事情あり徑路あつたことを述べて、之を以て獨逸人の煽動に出づなぞと做せる、彼の紳士閥新聞の愚痴と焦燥とを嗤ふのである。（完）

寒村生附記、本篇『勞働黨の威望失墜』までは、曩に一旦雜誌『政治及社會』に載せたものであるが、同誌の廢刊により、今改めて後半と共に本誌に再錄した。

神田橋

荒川義英

靖國神社ではしきりに花火があがつた。私は雜音から逃れ出て河岸づたひに神田橋近くまでやつて來て、橋を越えて濠り　を前にしやがんだ。十月二十三日夜十時。四五町たらずにあの九段の雜音があらうとは考へられない寂しさである。電車が時々轟つと過ぎ去ると後はひつそりとして人影さへなくなる。濠り江には舟が泊つてゐる。曇つてはゐるが月のある空とて水に泛ぶ舟の形は明細に浮び出てみえる。對岸の石垣の下を極く靜かな歩みで青い小さひ燭火を點じて舟が今時何のためにか動いて行く。

私は一時間程前に兎も角夕飯にありついて腹は先づあたゝかい。明朝までは先づ不平はないわけである。是で寢る所さへ極つて居たらば他は不平を洩らすは恐れ多いと思つた。私が今こゝにこうして濠り江を前に沈默を守つてしやがんでゐる事を知つてゐる者が此の世に一人とてもないのである。これだけでも私はせめてもの愉快でなければならなかつた。

私のしやがんだ所は、此の雜懊な薄汚ない不合理な大都會の生んだ埃で出來上つた丘である。此の大都會から見かぎられた埃から出來上つた此の丘は、同じく此の二百萬の群集が寄つてたかつて嚙み合ひ奪ひ合ふ裡から見事食物と住處まで奪はれた私を優に負ふに堪へた。

又花火が柳のやうに散る。あの下には數萬の人が何を祝ふか寄り集まつてゐる。私はゴヤの畫集にみたカーニバール祭の景を想ひ出した。何を祝ふかひた躍りひた笑ふ人々、あゝほんとうに彼等は何のために自から笑ふかを考へねばならない。あの花火の下には、自からの兒を虎の穴に誘惑して、然る後自からその彩見の數を並べて『みよ！我見はかくの如く勇敢なりき。汝等も彼等の如くなるとき汝等の骨は此の館のうちに塵かるべし』と示してゐる。赤い血まぶれな遺物がある。見る者は戰慄し乍ら小さな聲で言ふ『あゝ我は我骨を此處に並べらるゝ光榮ある機會を得ず』

ゴヤのカーニバールに現はれてゐる人物は只向ふみずに踊りわめいてゐる。踊る者の顏は目が落ちくぼみ顋が出て餓鬼のやうな相をしてゐる。それがきらびやかな着物を著て踊りぬく。今あの花火の下で何を祝ふてかどよめいてゐる人々は象徵化されると正にゴヤの畫である。

無智の力が恐ろしいのだ。幾千萬幾億の、トルストイが所謂『現代の奴隷』たる勞働者は皆無智のために自らを殺してゆく。智識ある者は人は殺し、智識なきものは人に殺される。無智の生んだ反逆は幾度くりかへされたとて徒らに人を殺すばかりだ。智識のための戰ひ、智識欲のための戰ひ。吾人がパンのための戰ひとよぶも結局を智識のための戰ひに導かざれば、依つて得たるものは又今日と同じき食慾の世ではないか。

クロポトキンにも藝術のために私有財產の否定を說いた一節がある。『プーシキンの全集は一片のパンに劣る』と云つたナイヒリストの言は甚だ小さい一面を云つたに過ぎない。パンのための戰ひ、科學のための戰ひ、藝術のための戰ひ、その鼎立して進むに何の不思議があらう。

既に餓へつゝある私である。パンのための戰ひと云ふに何で不服を言はう。乍然君よパンのみの戰ひと云ふを休めよ。

後ろを巡査が通つて行く。私は見つけて吳れゝばしばし話し對手が得られると思つたが不忠實な彼はガチャ〳〵と行き過ぎてしまつた。私は咳拂ひをしたがやはり見むきもしなかつた。

考へてみれば彼もまた終日の勞働を終へて妻の下へ急ぐ今時、しかも人通りとてない此の物かげで、何を苦しんで時間つぶしに事件

を捜し出さうとするものか。

平民より出でて平民を擊ち殺す兵士、平民に生れて裏切りしつゝある巡査、自からの仲間を苦しめたり殺したりする事によつて食を得てゐる彼等は眞に呪はれたものである。生きると云ふ生物の第一義を果たすためには終に自らの仲間を苦しめなければならないのだ。同じく苦しんだり冒險したりして生きるならば共食ひや裏切りをやめて別種族へ向かつたらどうだらう。

キリストは惡鬼に憑かれた者の身内から、惡鬼を拔き取つて、豚を其の犧牲にした。今の神は他から拔き取つた惡魔を巡査に移したのであらう。されば彼等は哀れにも呪はれたるもの共である。同じく苦しんでゐる仲間を切る爲めに、刀を鳴らしてゐるのである。

レオナルド●ダ●ヴインチは新藝術のために終世を惡戰苦鬪の裡に終へた。『先驅者』の悲哀は古今同なじである。『孤立人を殺す』と。しかし又孤立人を生かすとは吾々先驅者をもつて自から遇するもののモツトーである。誰も行かぬ道は我一人行く、と云ふサニンの豪語を言葉通に解して嗤ふ人々の淺薄を嗤ふ。かゝる批難を『孤立人を殺す』の上に與へるならば、いかにその女々しい泣き言となるかを想はねばならぬ。主張を異にする者、爲政者などの眼よりみて孤立とみるものも、その人の主觀よりすれば必しも孤立でない場合が多い。その人は將來の可能に對する確信がある。成算ある確信は現在の寂寥を消すにわけにない。その人は未來のうちに生活してゐるから現在その人にとつては過去の價値しかないのである。

然るに此の未來人はドリイマアと誹りらける。ドリイマアと云ふことばが誹譏の理由になるか否かは暫らくおいて、此の誹をする者は現在において兎も角も幾何かのエピゴーンを有してゐる輩である。彼等は現在に即する事あまりに堅いため現代の狀態の持久性に對する豫想を缺いてゐる。現在をもつて何となく動かぬもののやうに考へる。此の連中は愈よ息を引きとるとき『まさか死なふとは思はなかつた』と驚く連中である。自分の護衛兵まで敵になつたのを知らずなほも敵を打てと命令してゐる子ロ皇帝の悲哀である。

此の意味においてドリイマアなる誹は何方が受けるか疑問でなければならぬ。

九段の花火が止んだやうだ。青い灯をつけた舟は何時の間にか見えなくなつた。眼下には二はいの舟が眠つたやうに落ちついてゐる後ろをみれば甍々の建物も皆、人と共に深い眠に入らうとしてゐる。

一切の物が動かない。萬古不動の如く居坐つてゐるが實は近々四五十年に出來上つた代物である。舟の人は毎日底の泥をすくつては舟へあげて日をくらす。何時までも彼はさうやつて暮らして行くであらうか。泥は川底より舟へ上るが人は永遠に舟から陸へ上れぬであらうか。群集は何時までもあの花火の下へ集るであらうか。否。否。

夜が更けて來た。寢る所をさがしに出かけやうか。

■平民講演會■

日時　毎月一日十五日午後六時より
場所　小石川區武嶋町近代思想社
會費　金五錢
講演　十一月一日
　無政府主義の原則　大杉榮
　未定　荒畑寒村
　十一月十五日
　無政府主義の原則(續)　大杉榮
　未定　荒畑寒村

出席者は信用ある同志友人の紹介を要す

女の抗議

山川菊

經世家が出生率の低下を憂へる一方に、避妊論産兒制限論が漸次に顧られてくることは、國家生活の要求と、近代社會の實生活との矛盾と反逆とを最も著く表はしているものである。十月號には宮崎龍子君が青鞜社あたりの避妊論を批評せられたから、茲にはモツト眞劍な一婦人の告白を譯出して、避妊論を唱へつゝ子を産む思想家の參考とする。生活の矛盾とか充實とか云つても、それが有閑階級の思想的玩具である間は成人の飯事である。凡ての問題は階級鬪爭てふ現實に觸れて初て眞となる。

『私は二十六歳の若い身柄、夫は一週廿八弗の收入のある製圖師で、私達二人とも小供が大好き、ホンとに私達は、決して〳〵自分の小供はもつまいと決心した程に、大の小供好きなのです。私達が斯な決心をするまでには考た上にも考た揚句です。歐羅巴では幾十萬の父と子とが掠奪階級の利益の爲に屠られているし、私共の『自國』では毎年々々幾千人の男や女や小供等が、相當の衣食住を得ない爲に死でいます。私達の目には、戰爭なり貧困なり、豫防することの可能る病氣なりで人類種族は今や自滅を急いでいるやうに見えます。それで私共も力を加へて今こそ斯な『文明』に結末を與へていゝと決心したのです。

『米國にて慈善團體の保護を受けている數千の家なき兒があります。それで小供に渇している人々に對して、私共は、此上小供を造らないで既に生れて來ている小供の養育教化に盡されることを勸めたいのです。若し若夫婦が勞働階級に屬している人ならば、その産兒の九割は實に吾々の頭上にある營利組織の結果として、貧困と窮迫と犯罪と死との生涯を送る可き運命に定められるのです。で斯く恐ろしい前途をのみ約束する世の中に、無理無體に小供を投り込む罪科の共犯者たることを歛めるのは、我にも人にも義務であると考へます。

『勞働者には眞良の家庭はありませぬ。その家庭といつているものは、良くしたところで畢竟哀れな住ひであつて、寧ろ之を破壞することの早ければ早い程自身の爲にも後世の爲にも利益でせう。金持の世界は利潤の爭奪に狂しています。勞働者の息子や娘が長屋や工場や坑道や鐵道や又は世界の戰場で、蠅のやうに死なうとも、彼等は利潤を收めることは忘れませぬ。近頃、特に歐羅巴では、女は處女とも小供を有たねばならぬと迫るのが、資本家階級の風で、勞働の使用者は彼等の戰を戰ひ、彼等の利潤を增す爲に、より多くの兵士とより多くの勞働者とを欲するのでせう。

『より多くの小供を作れといふ主人の要求に對する私共ヘンリツチピタアゼンと其妻との答は斯うです。吾々はモウ貴君の大砲の餌を作らない、貴君の鑛山と貴君の工場との爲に奴隷を作らない、貴君の淫賣屋の爲に娘を生まない、貧困によつて犯罪を強ひられる青年を作つて貴君の監獄と養育院とを充たさない。

『貴君は貧困と疾病とにより、監獄と賣淫と戰爭とによる人種的自殺を信奉する。私達は出産豫防による人種的自殺を主張する。私達の最後は貧者の終でせう。百中の九十九迄はそうなのですけれ共、決して〳〵私達の小供等は……何故ならば私達はモウ〳〵小供を持たないからです、一人の小供をも資本家階級の利潤を作る爲に此世界の中に産まうとはしていないからです。

『仇よ聞け、資本家よ、私達は斷して全力を、何時かは寄生的階級を地球の表から一掃す可き革命の軍隊に傾倒せうとする。私達はモウ〳〵私達に心なき沈默をさせ、心なき妥協をさせ、その食ひ物と衣る物を得る爲に自らを僞らしめる一人の幼な兒をも持つまいと決心している。而うして私達は全ての聰明なる男女の勞働者に、産れた小供の爲に適當な世界を造るまでは、小供を持つまじといふことを勸めやうと思ふ』

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

僕等の生活

■泥棒手役人手

前號所載「禁止物の配布」に記された事件で、僕は家宅捜索をやられた。僕及び赤羽君の遺著二百十七册は、元より事件の主體であれば、燒いて喰ふと、煮て食ふと、お上樣の勝手だが、其際、傳手だからと僕の所有に屬する社會主義の著書三十三册を持ち去つた。如此の不法行爲――僕をして泥棒手役人手と疑はしめる事實なのだ。

僕は平生私有財産なる物に對して極めて淡白なる者である。併しながら權力を以て威壓的に來り、官命の名の下に所有品を持ち去るに至つては、その物品の多少に拘らず、その儘捨てゝ仕舞ふ事は出來ない。

殊に僕が所有して居る書籍は親讓りの財産や、他人の勞力を掠奪して得た財に依りて買つたものは一册もない。お上よ！役人よ！汝こそ能くその出所を知る。汝が六七年の永き尾行の間、僕が風雨霰雪と戰ひ、新聞賣りとなり、屑買ひとなり、人の用達となり、妻は薄暗き九尺二間の棟割長屋で人の賃仕事をなし粒々辛苦の際、辛ふじて得た金錢を以て手に入れたものである。夫れを命令の一言の下に濫りに權力を以て持ち去るとは、隨分思ひ切つた仕方もあればあるものだと思ふ。

社會主義者と云ふ名の下に個人の所有に屬する書籍三十三册を、役人と云ふ權威を笠に着て、殆んど强制的に持ち去るに至つては、大日本帝國に住む社會主義者には、社會主義の書籍を所有する權利もないのかと疑はざるを得ぬ。

抑々僕が此事件に對して斯く興奮したのは單に僕の『書籍三十三册』が問題ばかりではない。此處六七年の間に、我國に於ける社會主義者の幾人かが、僕と同じ顛末で多くの書籍を奪ひ去られ、沒收された。此の事實を見る毎に、如何にかして彼等の不法行爲に報ひてやりたいと考へて居た矢先き、果然！白羽の箭は僕に立つたのだ。僕は先づ警視廳に丸山特別高等課長を訪ふてその不法を詰つた。そして『近代思想』の同人は僕に若干の紙面を提供され、依賴した辯護士も快諾され、更に多年斯る問題に對して不平を有せる東西の同志は、書面を以て應援された。僕は有らゆる方法を以て、此の泥棒手役人手と、闘ふの決心をした。

然るに十月十九日、小石川富坂署の高等視察係り等は、僕の三十三册の書籍を古新聞に包んで返して來た。斯くして此の事件も吾々の勝利に歸した。謹んで同志諸君に告げ、同情と勞援とに對して感謝する。（渡邊政太郎）

■徹底せんとする努力

平民新聞その他の讀者たりしと一雜誌に關係ある故を以て、俺は遂に注意人物にされてしまつた。暴虐なる官權は何ほも俺の職業にまで干渉し始めた。職務の不忠實に那へて之だ。俺の職業の命脈も盡きんとしてゐる。

俺は愈々態度を決定せねばならぬ。現在に於ける唯一の慰安たる書く事讀む事を止めて心にもなき職務に勉勵し、社會に屈從し行くか、我が唯一の眞實の途たる叛逆に生くるか態度を決定せねばならなくなつた。

屈從は即ち死だ。今にして屈從するは、生れぬも同然だ。之がどうして俺に堪えられやう。然らば叛逆か、實に叛逆は虚僞の現社會にありては唯一の眞實の途だ。然れど之につく時、己一身の迫害は元より、親兄弟の不幸をも豫想せねばならぬ。之を思ふ時眞に堪えられぬものがある。

かくて弱き弱き俺なれば眞實の途と思ひつゝも斷行出來ない。然るに今此まゝの態度の持續すら許されぬとし、眞實の生の死としたら、嫌でも應でも叛逆に向はざるを得ぬではないか。俺は背水の陣を敷く事に決心した。俺はいよ／＼大膽に俺の所信を披瀝せねばならぬ。俺の眞實をさらけ出さねばならぬ。俺はこの決心から近く一雜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

誌を發刊する計畫だ。この一文もその第一歩だ。かくて俺は厳然たる注意人物ともされやう。解職もされやう。俺は唯だ俺の眞實に生くべく努力するばかりだ。(天野孤星)

■最も手近な敵

僕の會社では、社員は一切會社で食事する規定である。そして職工はコンクリートの上の腰掛で、事務員は疊の上でお膳に向つて、食ふのが常である。然もそれだけの差なら、事務員の一人がいふやうに『事務員と職工とは違ふ』のだからまだしも、事務員は帳簿を左右し得るのを利用して、特別の材料で特別に調理し、贅澤を極むるに到つては其儘にしては置かれない。職工の不平が耳に入つたと見えて、重役が以後一切の不平等を宣言せられ(表面だけにしても)事務員殿もコンクリートの上で腰掛で食事する事にされた。二人の事務員がこの愚痴をこぼして、「第一田中の奴なぞが職工の癖に生意氣が過ぎる」といつた言葉が終らない中に、二人の會話を遮つたのは一人の年若き勞働者である。『何が職工の癖に生意氣なんだ。同じ會社に働いてゐて、同じ食費を支拂つてゐる人間が一方は事務員だからといつて甘いものを食ふ、一方は職工だからといつてまづいものを食ふ。それで不平をいふ僕がなぜ悪いのだ。』「それはね君。同じ食費でといへば腹も立たうが、僕等は決して會社の金で食ふのではないのだからね。聞きつとか。鰹節は誰れが食べた。砂糖は、酒は、此間の牛は、誰れが食つたんだ、どこで買つたんだ、君はそんな事を洗ひ立てゝどうするのだ」「へン、聞いて呆れらア、今會社の金では食はないといひやがつて、「事務員と職工とは違ふ。その位違つた待遇を受けるのはあたりまへだ」

自分等の我儘勝手を指摘されゝば、財産家がいかに贅澤してもそれは有る金でするのだから仕方がないといふ。自分のものを自分で買つたのではないと證明されゝば、事務員と職工とは待遇が違ふといふ。それ以上論ぜんとすれば「それ程不平なら、出て行きやよいぢやないか」と自分が雇つてでも置くやうな事をいふ。是が僕の會社の事務員である。けれども、こんな横暴は、僕の會社の事務員のみに限るのだらうか。そして吾々勞働者の最も手近な敵は、先づ此等の事務員ではあるまいか。(小此木正吉)

■友よ、友よ

まづしき友よ!
きみはきかぬか悲しき叫び
市街の底にうめくさけび
かなしみ溢れる貧者の叫びを
友よ! 友よ!
まづしき友よ!
どうせ死なねばならぬいのちだ
かね持つ奴らになにが出來る
つるはしふるつて立つのはわれらだ
友よ! 友よ!
まづしき友よ!
せつぱつまつたわれらの力
天地はくだけ、貧者は叫ぶ
あなあな樂しきわれらの仕ごとよ

(井上猛一)

■百姓同志の話

時節柄、百姓はこんな話をして居ます。

「今年のやうな年たら無い。日でりで稲は實入りが悪るいし、豐は外づれる、繭が安い、おまけに米ときたらべらぼうに下落と云ふじや無いか、因果な年だ、これも皆戰爭のおかげだと云ふが……」

「ほんとに、今時の野郎共は何をして居るのか解りやしない。人を殺したり、傷つけたりする戰爭なんぞを何時迄も續けられちや、こちとらこそ好い迷惑だ、來年迄もこんなにして戰爭などしてゐれば、食つてなぞ行かれやしない。馬鹿らしい」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『ほんに、お前の云ふ通りだ、一層俺れはもとの徳川さんの時代にひつくりかえれば好いがと思ふよ、徳川さんは實にえらいものだ』

（久保田潔）

■重砲兵甲種第一番

——兄、私は日出度兵にとられました、それも重砲兵甲種第一番と云ふのです、多分對馬（警備隊）にでもやられるのでせう、喜こんでは下さるな。

八月廿七日午前十一時、一年有半寢付いてゐた親父が死んだそうです。これは私のせいだそうです。其の爲めに六人の兄弟と分れました。

十七日から見張がついて居ます。駐在のF——と云ふ若いポリスと、も一人少々氣のきいた樣な奴とが、交る〳〵見張つてゐる樣です。今晩も町に出て歸りますと、玄關の傍に人影が見えます。『どなたですか』と問ひますと逃げました。今も戶の外からペンの音を聞いてゐませう。（K、K生）

■田舎の新聞記者

（一）朝九時頃から市内の警察廻りをやる。『何か事件は有りませんかナ』『何も有りませんョ』『だうも世が不景氣だと事件まで不景氣ですナ』。

（二）十二時で警察廻りを打切つて社に出る。『ア、君、△△で女同志の心中をやつた、あれの家が〇〇に有るから行つて來て吳れ給へ』。社付部長の命令で其處に出かける。『親の心子知らずで困る者ですナ』から云ふ事を僕の口が、この口が平氣で云ふのです。

（三）又社に歸つて來る。『だうです樣子は？』『イヤ近頃流行の同性の愛以外に何等原因は有りませんョ』。

（四）『オイ元老〇〇侯の薨去だ、君、この夕刊の記事を甘く書なほして吳れ給へ』『ハイ〳〵』でそれも請合つて始める。題が『巨星墜として墮つ』、それから『△△山の松聲悲しく』から『吁惜しみても猶餘りあり』と結ぶ。

（五）七時か八時頃退社、實に情けない商賣です處が僕は人から『だうです』と聞かれて『イヤ中々興味の有る仕事ですよ』と答へる。

（中村勇二郎）

■僕は今から始まる

僕は今から始まつてゆく。僕自身の生活をオーソリチーに對する、強烈な憎惡と叛逆の鬪爭的生活であらしめねばならぬ。奪はれたる一切の、自由と平等と大和を、再び萬人の手に、奪ひかへす仕事は、僕の一生を貫く莊嚴な事業である。虐げられた人が、その虐げられてあることを、忘れぬように、そうしてその反撥しようとしてゐる良心が、彼等の暴虐に對する、激しい憎惡と怨恨に燃へるように、そうして彼等自身の痛憤が、血をもつて復讐を遂げるように、虐げられたる人々の中に僕自身を投ずる。だが、此れは僕等の誰れでもが想てゐる事實である。僕等の行く道には、強權の殘忍な追求がある、無法な壓迫がある、その上、ギロチンが勇敢な殉教者を縊るべく用意されてゐる。併し僕等は無法な迫害や壓制が、僕等の正しい行動のうへに激しく加へられゝば加へられる程、いやがうへにも、僕等の内に强度の反抗の血が湧くことを、幾多の先例によつて裏づけられてゐることを、壓制者に知らせてやらねばならぬ。僕は僕自身の日常生活に、不斷の叛逆と、敢て惜まない犧牲と獻身とを見出す準備を急がなければならぬ。もとより何時にても立つべき、準備のない筈は無い、けれど僕等は如何なる機會に於ても、亦た自ら造り出だした如何なる場合に於ても、一歩なりと讓歩はならない、躊躇と妥協は斷じて避けねばならない。僕等の踏み出だす一歩にも必らず何等かの獲得すべきものゝあることを信じない譯にはいかない。斯くて僕は、オーソリチーに對する憎惡心と反逆心とをもつて僕の生を擴充してゆく。（林倭衛）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

所謂政府的思想

――ディキンソンの『戰爭是非』――

大杉栄

一

小泉信三、三邊金藏兩氏によつて、劍橋倫敦兩大學教授ロオス・ディキンソンの『戰爭是非』が翻譯された。

今から二十年以前の日淸戰役當時には、所謂非戰論と云ふやうなもの丶聲は、日本の殆んど何處にも聞く事が出來なかつた。日本人の總ては、本當の擧國一致で、熱狂的に戰爭に從つた。然るに其後十年を經た日露戰爭に際しては、幸德堺氏等の社會主義者及び內村鑑三氏等の基督者の如き、前者は階級鬪爭の意味から、後者は人道の意味から、盛んに戰爭を否認し呪咀するものが現はれた。尤も內村氏等は戰爭の開始と同時に沈默して了つたが、社會主義者等は最後まで全力を盡して非戰運動に從つた。けれども未だ、其等の非戰論者は國民中の極めて小部分であり、政府からはあらゆる暴虐と迫害とを受け、他の大部分の國民からは非國民扱ひされたものであつた。

然るに其後更に十年を經た今日、我が日本も交戰國の一つたる此の世界的大戰亂に當つて、國民の戰爭に對する態度は殆んど一變した。尤も交戰狀態とは云ふもの丶、實際は僅に靑島の一要塞を敵としたに過ぎない位なので、全く冷靜な傍觀的態度で濟ましてゐられるのかも知れぬ。しかしそれが單なる無關心ではなくして、稍々積極的に戰爭の是非を論ずるものが、先きの社會主義者以外の學者や文學者の間に屢見受けられるのは、單に其事ばかりでは解釋され得ない。矢張り此處にも、多分の時代の進步を、見遁す譯には行かない。

文壇でも、相馬御風氏が其の評論の中に、又武者小路實篤氏が其の小說戲曲感想等の中に、往々戰爭否認の聲を洩らしてゐる。又學者としては、先きに慶應義塾大學教授河合貞一氏が、諸種の戰爭必要論戰爭謳歌論に對する反駁として『日本及日本人』に『戰爭哲學』を發表した。猶其他にも非戰的論議を公けにしたものが、屢々諸處の新聞雜誌に現はれた。けれども今特に僕が問題としたいのは、私立とは云ひ乍ら兎も角も慶應義塾大學から、此の『戰爭是非』が出版された事である。戰爭の是非は、知識階級一般の研究問題となつて、遂に斯くの如き組織的議論の必要を感ぜしめるに至つたのだ。しかもディキンソンの『戰爭是非』(實は『戰爭と之より脫するの途』)は、歐羅巴にありふれた平和論者などの、生ぬるい議論ではない。一切の戰爭の原因を所謂『政府的思想』に歸して、更に國家すら迄も殆んど否認するに至つた、極めて痛烈なるものである。

二

然らば其の所謂政府的思想とは何ぞやと云へばこれをディキンソン自身に據つて、『極く簡單に且つ飾り氣なく』云ひ現はせば、即ち斯らである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「世界は幾多の國家に分れてゐる。是等の國家は、其國に屬してゐる男や女や子供とは別に離れた、一種抽象的實在である。國家と國家とは常に相衝突する。しかも其衝突は避く可からざるものである。時として國家と國家とは同盟を結ぶ事はあるが、それは他の國家若しくは他の同盟に對抗する一時的必要の爲めにするに過ぎない。蓋し本來國家は、他國を侵害して無限に膨脹す可き約束を持つてゐるからである。國家と國家とは生れながらの敵である。過去に於て然り、將來も亦然るであらう。此間の關係を決するものは只だ武力あるのみである。從つて戰爭は永久の必要である。」

ディキンソンに從へば、一切の戰爭は、常に政府によつて起される。人民の欲求又は利害と關係なく、寧ろ屢々これを蹂躙して、政府によつて起される。然らば何故に政府が人民の欲求と利害とを無視して戰爭を起すかと云へば、政府當局者——君主、大臣、外交家、軍人——が、此の誤れる國家觀、即ち政府的思想若しくは政府的學説を抱いてゐるからである。尤も此の思想を抱いてゐるものは政府者のみには限らない。歴史家、新聞記者の多くは此の説を信じ、且つ一般の民衆も亦極めて此の説に侵され易い素質を持つてゐる。しかし此の思想は、政府者若しくは支配者階級に於て、最も其の勢力が顯著であり、且つ最も其の弊を逞しうする。

ディキンソンの『戰爭是非』は、此の政府的思想の批評を以て、終始一貫する。政府的思想は、國家を以て、老幼男女の國民とは別の、一種の偉大なる實在であると云ふ。しかしディキンソンに據れば、斯くの如き國家は、一種の虚構的抽象に過ぎない。實在ではない。實在するものは、只だ老幼男女の、國民のみである。そこで此の虚構的抽象的な國家を離れて、實在的な國民を念頭に置いて考へれば、侵略戰爭を是認し必要とする何等の理由もなくなり、從つて當然に防衛的戰爭の必要も是認もなくなる。

三

更に大體に於てディキンソンの言葉其儘を取つて、今回の大戰亂を批評すれば、次の如き結論となる。

先づこれを露對獨墺關係に就いて云へば、今回の戰爭の原因の一つは、彼の政府的思想の一大代表者たるベルンハアデイ將軍の云つた如く、露國がバルテイク沿岸とバルカン半島とを欲した事にあると云へよう。獨墺兩國の恐るゝ所は此處である。從つて此點からのみ見れば、獨墺は防衛的地位に立つたものとも云へる。

しかし露國の此の要求も、領土の擴張と云ふ傳習的思想に支配された露國政府の要求であつた。露國々民の要求とは沒交渉である。露國々民の大多數は農民である。彼等はバルテイク又はバルカンの何物であるかも何處にあるかも知らない。彼等の要求する所は只だ土地である。十分の土地を持ち、安樂に生活し、妨害と誅求とを受けずに其の土地を耕して行く事である。又露國の花とも云ふべき知識階級もバルカンやバルテイクを欲してゐるのではない。彼等は、自國政府の權力を破壞し理想を顚覆せしめんが爲めに、其の全

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

力を傾倒して來た。露國の農民や知識階級に取つては、其の政府の野心は、却つて彼等の要求する生活を破壞するものであつた。

露國々民はバルテイクの獲得を利益とする、何となれば斯くして安全に北海に軍艦を送る事が出來る、とも云はれてゐる。成程若し北海に於て露國の船舶と商業とを破壞しようとする他國の軍艦があるとすれば、これも尤である。しかし其の他國政府が同じ政府的思想の迷信に捉はれてゐる場合を除いて、何うしてそんな事があり得よう。實に皮肉な事には、總ての政府が各々己れの無辜無害を主張し、他國の利益に反する何等の野心を包藏せざる事を辯明して止まない。即ち其の謂ふ所に從へば、總ての政府は防禦の爲めに戰つてゐる。同じく防禦の爲めに戰つてゐる他の政府に對して、防禦の爲めに戰つてゐるのである！

尤も主として露墺關係たるバルカンに就いては、もう一つの深い原因があるとも云はれてゐる。即ちバルカン諸國の住民中には多くのセルヰア人がゐる。そして其の中でもボスニア、ヘルツエゴヰナに於けるセルヰア人は、武力を以て墺匈帝國に合併された。露國政府は、自國民と同人種たる此のセルヰア人を、壓制者の手から解放してやらうと云ふのだ。しかし要するにこれもお節介極まる事である。現在の形勢は、墺國政府がセルヰア人の或者を其意に反して合併し、更に其他のセルヰア人をも其治下に收めんとした結果として生じたものである。と同時に、露國政府が單にセルヰア人を解放せんとはせずして、これを已れの權下に合併せんとする所から生じたものである。人種を同うする人民が自治を欲する場合には、其の自治を許して、外から干渉してはならぬ。これが新しき政治家の容認しなければならぬ、人民の眞の利益である。

■

獨佛關係の背後には長い歴史、例によつての侵略史がある。政府者に取つては、一國の盛大と繁華とは、直ちに境を接する隣國の破滅を意味する。佛蘭西は獨逸を恐るゝ餘り、獨逸に劣らざる一軍國、佛國々民が幾多の革命によつて成就しようと努力した目的の正反對を代表する露國と、同盟を結んだ。これが爲めに佛蘭西は戰爭の渦中に捲き込まれた。しかし此處にも亦、眞に戰爭を惹起した責任者は、政府的思想の迷夢である。偉大なる獨逸の佛蘭西を犧牲にして更に一層偉大にならざる可からずと云ふ思想。削弱せられたる佛蘭西の獨逸を犧牲にして其力を恢復せざる可からずと云ふ思想。これが即ち衝突の前提であつたのだ。

最後に獨英關係に於ても、問題は矢張り同一である。獨逸も偉大である、英吉利も偉大である。そして此の地球上には、最早兩國の、更に膨脹すべき餘地がない。從つて獨英の何れかゞ他を粉碎しなければならぬ。斯くして先づ植民地の爭奪が起る。更に言葉を換へて云へば、獨英の衝突は、一大植民帝國を建設せんとする獨國政府の野心と、既に建設せる大植民帝國を維持せんとする英國政府の野心との、避く可からざる衝突から來る。そして政府的思想家等は、此の植民地の爭奪の爲め

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

には、戰爭を敢てするだけの、種々なる有形無形の價値があると云ふ。互に懐中物を掠め取らんが爲めには、互に殺し合ふだけの、種々なる有形無形の價値があると云ふ。

戰爭の經濟的無價値は、既にノルマン・エンジエルによつて喝破された所である。又本國以外の國に移住した植民は所謂『失はれたもの』になると云ふが、譬へば米國に移住した獨逸人が全く米國に滿足し、其の子孫は米國人に勝る米國人になつた所で、それが本國に居殘つてゐる獨逸人にとつて何の關係があらう。それが爲めに、幸福でなくなり、繁榮を失ひ、文化の程度を低め、道德に於て墮落するであらうか。又暴力に訴へて植民地を獲得する事は、即ち違つた文化の階級に立つ人間の住んでゐる海外の土地を領有する事は、國民により大なる眼界とより高尚なる仕事とを與へると云ふ。けれども印度の領有が、果して如何なる影響を、英國の國民的意識の上に及ぼしたか。又自國の文化を世界の上に普及する爲めに、其の國家を膨脹せしめなければならぬと云ふ。しかし文化は、其の眞に尊重され欲求される場所に於てのみ、安全に且つ有効に普及されるものである。暴力による移入は却つて反抗を促すに過ぎない。文化の何に一つとして、政治的權力を追ひ求むる事によつて、向上發展せしめられるものはない。文化は模倣と接觸とによつて傳播して行くものである。

五

斯く僕はディキンソンの反對政府的思想を極めて忠實に縮寫して來たが、更に此の植民と云ふ事、國家の膨脹と云ふ事に就いて、『戰爭是非』の譯者小泉信三氏の序文の一節を次ぎに借用する光榮を得たい。

日本で人口問題に就いて屢々斯う云ふ說を聞く。日本の人口が大なる速度を以て增加するのは最も慶賀す可き事である。何となれば我國は今後大に膨脹發展しなければならぬ。然らば何故に我國は膨脹發展しなければならぬかと問へば、我國の人口は年々非常な速度を以て增加しつゝあるからであると答へる。此の循環論法の根柢には、ディキンソンの所謂政府的思想の迷信的獨斷が横はつてゐる。維納の法學者アントン・メンガアは、其著『平民政策』の中に於て、人口增加を歡迎する思想は、軍隊の爲めに兵士の殖える事を喜ぶ武斷政治家と、工場の爲めに勞働者の增す事を喜ぶ企業家との爲めの思想である。人民はこれを其儘受入れて承認する義務はないと云つてゐる。

日本の政府的思想は、領土擴張例へば朝鮮併合の如きを、何等の說明を要しない當然の事として承認してゐる。しかし朝鮮併合の爲めに日本人の物質的精神的生活が何れ程高められたかと云ふ問に對しては、何等首肯すべき明確な答はまだ與へられてゐないやうである。しかし多くの人は其の答を與へられない前に承認してゐる。これを獨斷と呼ぶに何の差支があらう。そして此の獨斷の背後には、領土擴張の經濟的損益に關するノルマン・エンジエルの所謂大幻覺が潜んでゐるのは疑を容れないが、同時に國家は本來他國を侵略して無限に膨脹す可き約束を持つてゐると云ふディキンソンの所謂政府的

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

思想が無意識の間に強く働いてゐる事を否めないのである。

六

僕は、此の所謂政府的思想を以て、何等の事實に基づく所なき迷信であるとするディキンソンの議論には、次ぎの如き一條件を附して、然りとも答へ又否なとも答へる。即ち此の政府的思想は、權力者にとつては全く確實なる基礎の上に築かれ、無權力者にとつては全く無有の基礎の上に立てられたものである。換言すれば、此の政府的思想は、權力者なると然らざるとによつて、或は實となり或は虛となる。尤も元來は實であつたのが、其の基礎の消滅した後までも猶其の思想が殘存し、又は其の思想の發展するに從つて先きの本當の基礎から脫出して、遂に虛となる事もあらう。

思想は、天から降つて來るものでもなければ、地から湧いて來るものでもない。殊に社會的學說は、必ず何等かの社會現象に對する、適應であるか或は反動である。次ぎに今日の社會は、利害の全く相背反する、兩極の階級に分れてゐる。そして其の權力階級即ち征服階級は、自己の立場から觀た社會的學說を製造して、立場の全く異なつた無權力階級即ち被征服階級にそれを強制する。されば此の政府的思想は、獨り國家や戰爭に就いてのみならず、國民生活の殆んど有らゆる方面に、種々なる形式となつて侵入し、種々なる制度となつて實現されてゐる。

譬へばバアナアド・シヨオが『資本家は上流の交際社會に阿ねる爲めに戰爭に贊成すると同時に、資本の價格を引上げる手段として戰爭を喜び迎へるのである』と云つたのに對して、小泉信三氏は『如何にも戰爭が金利を高からしめる事實はある。しかしこれだけで戰爭が資本家階級全體に利益を齎すと斷言するのは早計であらう』と云つてゐるが、此の資本家階級全體と云ふ所に小泉氏の駁論の不正確がある。資本家階級と云つた所で、必ずしも各資本家が相共に利害を謀る、嚴密なる組織ではない。小泉氏が直ぐあとに云ふ如く、『戰爭が社會の或一部の階級に莫大なる經濟的利益を持ち來たす事は明白なる事實である。』

即ち軍艦軍器製造者は『國民の愛國心敵愾心、戰爭熱を謂はゞ資本として利を營む。しかも彼等は、自國民のみならず、亦實に他國民をも煽動する事によつて利を營む、英國の軍艦製造會社は、英國の軍備擴張のみならず、同時に又獨逸の海軍擴張をも歡迎したのである。是等の軍器會社が、其の利潤を增さんが爲めに、如何に新聞紙及び政治家を其機關として、各國の軍備擴張熱を人工的に昂奮せしめたかは、獨逸ではリイブクネヒト等、英國では獨立勞働黨機關紙の可なり詳細な調査がある。』

軍器製造者は、普通に國內屈指の大資本家である。しかし戰爭によつて莫大なる利益を受けるものは、此の軍器製造者のみではない。これを我が日本に見て、日淸日露兩戰役後、多くの大資本家の資産が、如何に突如として彌が上にも增大したかは、今更に詳說するまでもない事實である。ノルマン・エンジエルの云ふが如く、國家が戰爭によつて費す金額と戰爭によつて得る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

金額とは、差引勘定して損失であるかも知れぬ。しかし其の國内の大資本家等は、いつの戰爭によつても常に非常なる利益を得て來た。

七

それぱかりではない。戰爭は資本家制度の必然の結果である。國内の勞働者に十分なる消費を禁じつゝ、無秩序に諸種の生産を行ふ今日の資本家は、勢ひ外國に其の商品のはけ口を求めなければならぬ。此のはけ口の競爭、詮じ詰めれば、近代の戰爭の原因は總て此處に在る。

即ち國家を一般國民から取り離した抽象的實在としたのも、戰爭や領土擴張を以て國家必須の任務としたのも、要するに此等の資本家の生死に係る必要の上からである。空想でもなければ迷信でもない。ディキンソンが、自ら非愛國論者國家否認論者でない事の辯護として、『戰爭是非』の第二版の序文中に云つた、『現在及び將來に於ける國民の幸福を進める事を目的とする協同の一形態として考へられた國家』こそ、實に資本家の立場から見れば、何等事實に據る所のない抽象的、虚構的觀念に過ぎないのだ。國民を實在とする國家はもはや國家ではないのだ。征服者と被征服者との區別を絶滅した社會には、もはや國家も政府も何の必要もないのだ。斯くの如き無政府無國家の社會こそ、征服者にとつての、大空想大迷信であるのだ。

ディキンソンの極めて抽象的なる所謂政府的思想を斯く具體的に解し來れば、其の思想に基づいて起る諸社會現象に就いての彼れの見解は、殆んど總て非議す可からざる程の名論卓説である。僕は、此種の組織的著述に極めて乏しい我が日本の讀書界に、此書の普く精讀されん事を、此點から切に希はざるを得ない。

けれどもディキンソンは、此の所謂政府的思想を抽象的のものと見たところに、遂に最後までの誤謬若しくは不確實を免れる事が出來なかつた。即ち彼れは、戰爭から脱する道として、永久的平和を實現する方法として、『只だ世人が其の考へを改めさへすればいゝのだ』と云ふやうな、そして斯く其の考へを改めて、歐羅巴平和同盟を組織しなければならぬと云ふやうな、幽玄的結論に到達してゐる。

しかし又彼れが、媾和條約の基礎原則として提出した二案は、今回の大戰亂の結末をつける實際論として、甚だ聽くべきものがある。其の原則の第一は、何れの國が勝利者たる場合でも、對手國に屈辱的平和條件を課す可からずと云ふに在る。そして其の第二は、國境の改定は必ず其の住民の意志に從つて行はざる可からずと云ふに在る。既に屠殺に飽きた、そして此上の屠殺は却つて自國の中に内亂を招致すべき事を覺つた國家等は、國民の要求さへ強烈であれば、或は此の提案に從ふかも知れぬ。けれども只だこれだけの媾和條約が、歐羅巴の平和保證の本當の基礎條件であるなど丶思つたら、それこそ大間違ひである。

萬事は只だ、所謂政府的思想の絶滅に在る。其の背後にある根本事實の絶滅に在る。そして其間に新しき民衆的思想が爆發しなければならぬ。其具體的事實が勃發されなければならぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平民經濟學（三）

大杉榮

雇主階級の經濟的權力

一　近代工業制度の結果

近代工業制度の勃興は、歐米諸國民の生活の上に、先づ次ぎの如き結果を齎した。

一、國民の職業的組織の變更。
二、人口の分布方法の變更。
三、新階級即ち勞働階級の形成。
四、人口の増加と賃銀制度の擴張。

機械工業は、種々なる大工業と新しき運輸方法とを創設して、國民の職業的組織を全く變更せしめた。紡績工場の設立は、夥しき數の、男女の勞働者を要求する。鐵道も亦其の主線の布設せらるる部分に、多數の地方人士を召集する。佛蘭西なごでは、鑛山業と冶金業との發達が、數年の間に二十萬餘りの勞働者を鑛業地に吸收して、その爲めに農業者の數を減じさせ、著しく商工業者の數を増さしめた。斯くして商工業者と農業者とは、機械工業以前には二〇と一との割合であつたのが、今では殆んど同等の數になつた。

それと共に又、各地に於ける國民の分布方法の上にも、同様の變化が來た。鑛脈所在地、紡績工業の發達に好都合な地方には、資本家が大工場大製造所を設立して、其處に勞働者の大聚團を形づくる。斯くして或る一地方に多數の人口が密集すれば、直ちに又、其處に衣食等に關する數多の消費工業を誘致して、更に愈々人口を増加する。

此の大工場大製造所の設立、及び人口の集中は、都市の價値と數とに影響を及ぼす。都市は増大した。各地方の到處に、舊都市と新都市とが見出される。幾多の工業都市が種々なる分子を以て建設される。

機械工業は、種々なる技術的及び經濟的結果を齎らすと共に、更に其等の結果は、新しき社會階級即ち勞働者階級を形成するに至つた。大工業に使用される勞働者は、規律ある共同勞働、勞働の極度の分業と云ふ、未聞の勞働形式を強ひられる。

機械工業の齎らす諸技術的必要は、是非とも、本當に規律のある共同の勞働を強請する。時刻通りに工場に集まらなければならぬ。缺勤をしてはならぬ。工場で定めた技術的制定の規則に從はなければならぬ。

又大機械によつて行はれる種々なる作業は、勞働の極度の分業即ち專門化を誘致する。今日では、人間は機械の召使である。人間は只だ機械の傍に侍つて、極めて小さな、いつも同じ仕事をさせられてゐる。

女や小供を工場に採用する所から起つた家族の解體、長家住居、都會の種々なる教育及び娛樂の影響、物質的生活條件の困難、失業、貧困、階級鬪爭、と云ふやうな大工業中心地の生活は、機械工業以前とは全く異なつた、多くの思想と感情と風俗とを發達させる原因となつた。そして其

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

等の一切の影響が相集まつて、一世紀の後には、新しき社會階級即ち勞働者階級を形成するに至つた。

鐵道、航海、鑛山、冶金、紡績等の發達は、商工業の活動を盛んならしめて、歐米の各國に人口の增加を來たさしめた。繁殖力の最も少ないと云はれてゐる佛蘭西ですらも前一世紀の間に、三分の一の增加を見た。且つそれに連れて、機械工業以前には職工の數が數十萬しかなかつたのが今日では八百萬の工場勞働者を數へるに至つた。

斯くして近代工業制度は、勞働者の數と比例とを增加し、其の必然の結果として絕えず賃銀制度の範圍を妨げて行く。

二　雇主階級と勞働階級

今日の社會では、社會的生產が一私事として見做されてゐる。即ち雇主は、法律を侵さゞる限り、思ふまゝに其の事業を運んで行く事が出來る。そして雇主は、其の事業が社會に及ぼすべき影響に就いては、何等の顧慮する所もない。

斯くの如き經營方法は、雇主階級と勞働者との利害を全く相背反せしむべき、非常なる不都合を招く。即ち雇主階級の利益としては社會的分配の中の出來るだけ大部分を壟斷して、勞働者には出來るだけ小部分を與へる事になる。蓋し雇主等は其生產と分配との條件を規定する方法に從つて、勞働者階級に與ふべき部分を多くも少なくも減らす事が出來る。そして雇主等は、勞働者階級に團結組織のない所から、一切の經濟的及び行政的權力を其の手に收め、且つ其の權力を利用して、勞働者階級に與ふべき割前を減らす有らゆる手段を廻らした。換言すれば生產の費用を最小限にまで減らす事に努めた。

斯く雇主階級は、社會の欲望を滿足さすに必要なものを供給すると云ふ目的で、其の生產を行つてゐるのではない。只だ出來るだけ多くの利益を得たい爲めだ。此の利益の爲めの生產と云ふ事が、今日の社會の特徵なのである。

近代工業制度は、斯くの如き組織の社會に於て、益々兩階級の對抗を激成する。そして雇主階級は、其の掌握した權力を利用して、次ぎの『雇主階級の經濟的權力』の中に細說するが如き、左の三項の事を謀る。

一、機械工業の生產力が齎す利益を勞働者から奪ふ。
二、勞働者に對する其の專制主義を强める。
三、社會的分配の中の自分の分前を甚だしく增す。

三　雇主階級の經濟的權力

消費せらるべき生產物の量は、技術的方面から見れば、人の勞働と機械の生產力との、二要素に係る。

若し此の機械の生產力が、今日の場合の如く、甚だしく增大すれば、勞働者は其の勞働時間を短縮しつゝ、猶其の消費を多量になし得べき筈である。然るに勞働者は、雇主が生產と分配との經營に必要な經濟的權力を握つてゐる間此の二重の利益を享ける事が出來ない。雇主等は、其の權力を利用して、恰も機械工業の存在せざるが如くに、最大

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

限の勞働と最小限の賃銀とを課する。

雇主階級は次ぎの如き經濟的權力を持つてゐる。

一、勞働時間をきめる權力。

二、賃銀の額をきめる權力。

三、勞働者が事故又は疾病の爲めに、一時勞働の出來ない場合に、其の賃銀をとり上げて了ふ權力。

四、社會的分配の中の自分の分前を、地代、家賃、利子利得及び配當等の名義の下に、先取する權力。

雇主は、機械の生産力に比例する、勞働時間の短縮を拒む。即ち機械工業の生ずる利益の一つを利用する事を、勞働者に拒む。雇主は、其の雇人と相談する事もなく、又機械工業の與へる新しき條件を顧慮する事もなく、只だ自己の利益の爲めにのみ、勞働時間をきめる。

生産物の量は、一般に、勞働の時間と比例する。そこで雇主は、生産費を減じて利益を增さんが爲めに、長時間の勞働を課する。嘗つては、しかも女子や小供でも、工場に出勤する時間は、十五時間乃至十八時間であつた。それが今日では、雇主の反對があつたのにも係らず、漸くに十時間乃至十二時間に短縮せられた。長時間の勞働は、勞働者の健康を害し、殊にそれが小供に及ぶ時には、人種の本當の墮落を來さしめる。しかし斯くの如き一般の利益と云ふやうな一切の考察は、長時間勞働が、雇主に、生産の經濟的條件をきめる專制君主たる雇主に、利益である間、少しも顧みられない。

今日の機械の生産力は、若しそれが生産の有らゆる方面に利用せられゝば、著しく民衆の消費を增し、其の殆んど一切の欲望を滿足せしめるに至るものである。然るに雇主は、機械の生産力の益々發達するにも係らず、賃銀と從つて消費との增加を拒む。斯くして雇主は、機械と人との勞働の結果たる剩餘價格を、其の手に收める。

此の雇主の利益と云ふ事が、賃銀の本當の法則なのである。此の法則の中に、其の一切の法則が包含され、又抄略されてゐる。經濟學者は、切りに其の法則を他に求めようとしてゐるが、要するにそれは無駄な事である。雇主は常に、最小限の賃銀、即ち勞働者の生命を維持さすに足るだけの賃銀しか與へないとする。同盟罷工をされても又工場閉鎖をやつても、別に雇入れられる失業者が控へてゐればいつでも賃銀を下げる。同國人よりも外國人の方が廉ければ、喜んで廉い方を雇入れる。又賃銀を上げても、それによつて自分の利益が保證され又は增加する時には、嚴密な必要以上に賃銀を上げる。譬へば監督とか技手とか云ふ、何等かの資格で特に自分の利益を保護するものには、高い報酬をやる。

勞働者側から見て賃銀を上げてもいゝと思はせるやうな理屈は、雇主には何の効果もない。賃銀は、つらい勞働いやな勞働だからと云つて、それに比例して上りはしない。又其の危險の度に應じて上りはしない。特殊の困難な、厭ふべき、又は危險な勞働に從事するものも、それが爲めに高く拂はれはしない。且つ又、特殊の才能なり科學なりを持つてゐても、若し雇主が免かれ得れば、報酬を上げる理

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

由とはならない。大工業に使用されてゐる技術家や化學者などは、往々屈辱的な報酬を貰つてゐる

此の最小限の賃銀と云ふ法則は、其の結果として、大部分の國民の消費を制限する事となり、機械工業が其の驚くべき生產力を發揮するにも係らず、國民は甚だしき貧困に陷らしめられる。

斯くして今日の社會には奇怪な矛盾が行はれる事になる。即ち機械工業の發達は、勞働階級の幸福を增す筈であるのに、却つて其の幸福を減じさせられる。雇主は、勞働者を使ふ必要がなければ、報酬を拂ふ事はない。されば賃銀の總計は勞働の量と比例する。然るに機械工業の進步は同じ量の生產の爲めの勞働の總量を減じさせるので、其結果として賃銀の量をも從つて消費をも、そして更に言葉を換へて云へば幸福をも減じさせる譯である。只だ幸にも、これと反對の方向に作用する或る現象があるので、此の減少的傾向も打消されて了ふ。即ち數十年以來の不斷の發明によつて、新しき工業が創始される所から、一方に減少しつゝある勞働の要求を、其處に償ふ事が出來た。

今日の機械工業の生產力は、各個人をして、其の勞働に堪へ得る間に、其の消費し得るよりも餘程以上に、生產せしむるに足るものである。されば各個人は、十分に其の勞働を供給し得ざる如何なる出來事に際しても、十分に其の欲望を滿足せしめ得る筈である。然るに雇主は、勞働者の疾病、事故、癈疾等の場合に、更に言葉を換へて云へば、勞働者が最も金を要する場合に、其の賃銀をとり上げて了ふ權力を僭有してゐる。雇主は又、勞働者の老癈の場合に、養老金を與へる事を拒む權力を持つてゐる。それはかりではない。工業の性質上必然の休業の際にも、勞働者に賃銀を與へない。

此の規則も亦、甚だ重大な結果を齎すもので、若干の勞働者と其の家族との窮迫を導く。

雇主階級は、二種の人物、即ち普通に云ふ雇主と持主とより成る。持主は、其の所有する資本共物を自ら利用する事なくして、しかも猶分前を先取りする權力を持つてゐる。土地の持主は、其の土地の性質によつて高低する多少の地代を收める。家屋の持主は其の家屋と維持費との總計の利子として、家賃を收める。金主は、資本を貸したお禮として、其の利子を收める。

雇主は又、其の企業に注ぎ込んだ資本の利子の外に、各々の勞働者の勞働の生產物の上に、頭をはねる權力を持つてゐる。即ち價値を生產費よりも高くして利益を收める。株主は、大工業を營む會社に資本を供給して、其の貸した金の利子として、又それによつて得た利益として、所謂配當金を收める。

斯くして雇主階級は、今日では、幾百千萬の個人の上に其の經濟的權力を揮つてゐる。そして其の權力は、此の幾百千萬の勞働者から、機械工業の齎す二重の利益を壟斷せしめてゐる。又社會的分配の分前を、非常な割合に增加せしめてゐる。即ち近代工業制度は、雇主階級の掌握する經濟的權力の價値を、著しく增大せしめたと云つてもいゝ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯の後

榮

■『僕等の生活』には餘程の期待をしてゐたが、どうもまだ十分な感心は出來ない。しかし大體からは、もつと面白いものが出來るだらうと、矢張り期待は續けてゐる。極めて小さな誌面ながらも、僕等の生活はこんなものだと云ふ、張り切つた意氣なり不平なりを、これによつて十分に現はしたいと思ふ。そして其の意氣なり不平なりは、なるべく理屈ではなく、事實によつて示したいと思ふ。

■そして此の、なるべく理窟でゞはなく事實によつてと云ふのは、此の雜誌全體の編輯方法としたいのだが、さうなると又『平民新聞』の運命を其儘繼承する恐れがある。殊に『事實と解釋』などは、思ひ切つてやらなければ嘘なのだが、矢張りさう云ふ譯にも行かない誠に困つたものです。

■雜誌全體として少し難しすぎると云ふ批難もあるが、難しいものも一つや二つ位あるのは大目に見て戴きたい。そんなものにもそれ相當の存在の理由はある。しかし其の難しいものも出來るだけは勉めて、易しく書くようには心掛ける。

■何分にも甚だ人不足ではあり、その不足な人も極めて多忙なので、なか〳〵思ふやうには行かない。しかし讀者諸君の方で御心づきがあれば、何でも御遠慮なく云つて戴きたい。皆んなで此の雜誌を編輯してゐる氣持になつて、皆んなの力で此の雜誌を益々立派に育て上げて行きたい。

■雜誌の賣れ行は大ぶいゝやうだ。七日に發行したのが十日には賣れ切れになつて了つて僅ながらも再版をした。こんな具合だと大ぶ景氣はよさゝうだが、地方の同志諸君からの送金の少ないのには弱つてゐる。何分にも滿く保證金を手に入れたゞけで、本當に一文なしで仕事を始めたので、實は此の前金が唯一のあてになつてゐたのだ。前金切れの諸君は至急御送金を乞ふ。

■寒村の譯編『センヂイカリスムの研究』は、今秋民鐘社から出版する筈で、既に豫約を募つてゐたが其筋の命によつて發行を中止した。猶十一月中旬には僕の『生の鬪爭』以後の論集『個人と社會』が、新潮社から出る筈。定價は多分八十錢。クラポオトキンの『相互扶助論』も、矢張り新潮社から出る筈で、目下翻譯中だが、これも近いうちには出せるだらう。堺の論集も近々實業之世界社から出るさうだ。

「僕等の生活」 五十行以内 〆切十五日

■定價一册金十錢、半年分前金五十九錢一年分前金一圓。但し外國は別に一册金二錢宛の郵税を要す。郵券代用は九厘切手に限る。但し一割增の事。
■廣告料特別一頁廿圓、普通十五圓。
■本社振替貯金番號東京一七一六四。

大正四年十月三十日印刷納本
大正四年十一月一日發行

府下調布町布田小嶋分一六七
發行人 宮嶋信泰

東京小石川區武嶋町廿四
編輯人 大杉榮

府下大久保百人町三〇七
印刷人 荒畑勝三

府下調布町布田小嶋分一六七、
發行所 近代思想發行所

東京市神田區表神保町一〇
印刷所 第三帝國活版所

大賣捌所 東京堂、上田屋、東海堂、北隆館

地六社復刻版

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

雄篇大作 植竹文庫 全譯縮刷

■第一編■ 縮刷 サーニン 全譯

アルッヱバシヱブ作
武林無想庵譯
（五版）

原著は露西亞文壇の巨匠アルッヱバシヱブ氏の傑作にして結構の幽微描寫の精妙共に幾多の大陸文學を壓倒しその深大なる虛無思想は露土の曠原を抱擁して尙餘りあるところ譯筆又雋鋭辭句の辛辣精細にして叙述の確的なる原作の彿を髣髴せしめ讀者をして殆んど卷を措く遑なからしむ、——時事新報評——

■原稿紙九百五十枚の大作
■四六版美形箱入美本
■全六號四百餘頁
■定價九十錢
郵稅八錢

■第二編■ 縮刷 ロンブロゾオ著 辻潤譯 全譯 天才論

（四版）

伊太利の碩學ロンブロゾーの代表作『天才と狂人』の全譯初めて現はる。

■原稿紙約九百枚の大作■
■全六號紙數約三百五十頁■
■寫眞版約五十個挿入■
■定價九十五錢■
郵稅八錢

凡そ天才を論じてかくまで該博精緻なる科學的研究の根據に立脚し而も興味湧くが如きものは蓋し空前なり。引照せられたる幾多の詩歌文章また一種獨得の文學を構成す。科學書にして科學書に非ず、文學書にして文學書に非ず、心理學？生理學？形貌學？否、否、否、是等の全てなり、近代文藝を根柢より理解せんと欲する人々は云ふまでもなく凡そ天才の眞に如何なるものなるかを知らんと欲する人々は先づ此の書を讀め。

發行所 東京市麴町區三番町八十四 （振替東京一二九五三） 植竹書院

賣文社

文章一切代作添削
歐文和譯和文歐譯
歐文漢文立案代作
新聞雜誌原稿製作
新聞雜誌書籍編輯
校正寫字及タイプ
印刷物及出版代辨
廣告文案意匠圖案
營業案內御報呈上

東京永田町二の六八　電話新橋二八五六
赤坂溜池停留場際　振替東京二四六二六

堺利彦・白柳秀湖

▲報酬の低きを誇らず事の全きを期す▼

■當所は法律の實務界に現代的の生命と充實と組織と敏活とを與へ、あらゆる實生活と法律とを相親ましめ併せて公共的精神を發揮することを理想とす。

組合 東京法律事務所

■法務部（法律課、整理課、刑事課、特許課）■簡易部（無手數料成功報酬）■特別上告部（均一報酬）■特別鑑定部（三圓均一）■會費顧問部（均一會費）■無料相談部（每土曜日午後）

▲世の爲め人の爲めを計り、利を貪らず▼

京橋區新肴町一番地
振替東京二六一二七番

辯護士　吉田三市郎
辯護士　田坂貞雄
辯護士　山崎今朝彌
辯護士　阿保淺次郎
辯護士　佐々木藤市郎

電話京橋（一五五四番／二九〇一番／三〇四八番）

佛蘭西語教授

初等科

教授時間　日曜日自午前九時至正午十二時
用書　初等佛語選文讀本、佛語初步
學期　六ヶ月

中等科

教授時間　日曜日自午後一時至午後四時
用書　中等佛語選文讀本、中級佛語
學期　一ヶ月

高等科

教授時間　日曜日自午後五時半至午後八時半
用書　文學、科學、哲學等の佛文書
學期　制限なし

會費　入會金壹圓、會費一ヶ月金壹圓
入會手續　名刺に會費と入會金とを添へ申込む
講師　大杉榮氏

佛蘭西文學研究會
小石川區武島町二四
（江戶川線東五軒町下車）

讀書界を騷がせて居る

直ちに再版

●小山內薫作

盲目

△定價壹圓送料八錢（市內四錢）
△四六版特製 函入裝幀瀟洒（最新刊）

▼戀は盲目。「大川端」の以來長篇。回顧廿年間の戀物語

新らしい女の生れる前の少女とロマンチシズムの夢の未だ全く醒めない學生との戀の告白である。著者が**小學校時代、中學校時代、高等學校時代**の學生少女間の內部生活で、當時の學生は未だ純潔を夢み神の前の火のやうに常に胸の炎を汚されまいとしてゐた。そこには矛盾がある煩悶がある且つ又光彩がある茲にその一切を物語る。小山內氏得意の舞臺は開かれたり！

大評判の

◎柳亭種彦作 歌川國貞畫（一、二、三、四全四冊）（一冊七十錢 送料八錢）

繪本 偐紫田舍源氏

定價 四冊 一圓八十錢 ▲送料十六錢

●菊版大和綴製本瀟洒
●今樣活字組振假名附
▲原本同樣全頁繪入
●木版十數度手摺挿入

●江戸趣味の權威——我文藝界の珍寶（忽ち再版）

發行所 東京市本郷千駄木町 振替東京九五五六番 小川四方堂 賣捌全國 各地書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代思想 第三卷第二號
大正四年十月四日第三種郵便物認可
大正四年十一月一日發行（毎月一回一日發行）
十一月號 金拾錢

秋の旋律

（其二）

『お月さんいくつ、
十三、七つ、
まだ年や若いな……。』
歌聲消えて子供等の、
影の見えなくなる時に、
高く擴がつた大空には、
魂にまで沁み入りさうな、
丸いお月樣が唯一人ぽつち！
いえいえ私と唯二人。
廣い靜かな秋の夜を、
仲よく語り明かしませう！
だけど一寸待つて頂戴な！
あんまり淨い氣高いお月さん、
私もライオン石鹼で、
體も心も潔くして、
それから語り明かしませう。
あれあれ蟲が鳴いて居る、
キラリ露の光る葉の下で。